

第3章 モニターツアーの実施と評価

1. モニターツアーの実施

第4回地域研究会（合同会）において検討された7つのモデルコースから、各地域研究会と旅行専門家の投票により選定されたルート6（松山～呉～竹原）について、実際に一般消費者からモニターを募り、それぞれの地域で検討された集客サービスなどを体験してもらい、その評価とスロートーリズムに対するニーズ等を把握するためにモニターツアーを実施した。また、あわせて旅行専門家によるコースの評価を行い、瀬戸内海スロートーリズムの商品化や売り出しに向けた課題を把握した。

（1）モニターツアーの実施概要

ア. モニターツアーの実施日

	実施日	対象	参加者数	
			モニター	事務局他
Aグループ	平成18年 3月7日（火） ～9日（木）	大阪発着 <u>公共交通利用</u>	20名 （男性9名、女性11名）	1名（中国総研） 1名（専門家評価） 3名（委員等）
Bグループ	3月8日（水） ～10日（金）	東京発着 <u>貸切バス利用</u>	20名 （男性4名、女性16名）	1名（添乗員） 1名（バスガイド） 1名（中国総研）
Cグループ	3月9日（木） ～11日（土）	大阪発着 <u>貸切バス利用</u>	20名 （男性4名、女性16名）	1名（添乗員） 1名（バスガイド） 1名（中国総研） 1名（専門家評価） 1名（委員等）

※天候はおおむね晴れ。9日の呉（Bグループ）は若干気温が低かった。

イ. モニター参加者

- ・モニター参加者（各グループ20名・2名単位での申し込みで10組）は、旅行会社の顧客リストを用いて募集した。
- ・モニター参加者の年齢層は以下の通りであり、中高年層を中心とした夫婦、友人グループなどであった。
 - Aグループ：40代1名、50代12名、60代6名、70代0名
 - Bグループ：40代0名、50代4名、60代13名、70代3名
 - Cグループ：40代0名、50代12名、60代8名、70代0名
- ・モニター参加者にはアンケートによる詳細な評価をお願いした。

ウ. モニターツアーの実施担当者

- ・各グループに1名ずつ事務局担当者が同行して実施内容について把握した。貸切バス利用グループ（B及びCグループ）には1名ずつ添乗員が付き行程管理を行った。

(2) モニターツアーの行程

Aグループ (大阪発公共交通利用)

日次	月日	行程			
1	3/7(火)	大阪(伊丹) 9:40 - ANA441 → 10:30 松山空港 松山空港 11:10 → リムジンバス → 11:44 道後温泉 12:00～13:00 (昼食) にきたつ庵 (道後) 13:00～17:00 松山城下めぐり バス・電車1日フリーキップを利用した城下めぐり (夕食・宿泊) 道後温泉 道後館			
2	3/8(水)	道後温泉 9:00 - 送迎バス → 9:40 松山観光港 松山観光港 10:00 - 高速船 → 10:55 呉港 11:00 大和ミュージアム見学 (館内のボランティアガイドが案内)			
		<呉市街地コース> (昼食) 自由昼食 ※ボランティアガイドと合流 入船山記念館, 歴史の見える丘, アレイからすこじまを周る (個別にボランティアガイドがご案内) 17:30 ホテル到着 (夕食)	<音戸オプションコース> ※ボランティアガイドと合流 呉駅～(バス)～音戸 (昼食) かつら (音戸) 音戸渡船口～(渡船)～警固屋 入船山記念館, 歴史の見える丘, アレイからすこじまを周る (個別にボランティアガイドがご案内) 17:30 ホテル到着 (夕食)		
		19:30～21:20 灰ヶ峰夜景ツアー (宿泊) 呉阪急ホテル			
3	3/9(木)	呉駅 9:01 - JR → 10:05 竹原 10:30 町並み保存地区ガイドンスツアー (江戸時代の町並み保存地区の主要スポットをガイド付きで周る) 12:00～13:00 (昼食) 自由昼食			
		<午後選択メニューA> 町並み保存地区の体験ツアー ・町家の意匠めぐり ・酒蔵めぐり ・文化施設めぐり 15:00 町並み保存地区にてアンケート記入・回収	<午後選択メニューB> アヲハタジャム工房でジャムづくり体験 (忠海地区) 15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収	<午後選択メニューC> 黒滝山ハイキングで瀬戸内海の眺望を楽しむ (忠海地区) 15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収	
		竹原 16:05 - 忠海 - JR → 16:41 三原 三原 17:19 - 新幹線 → 17:43 福山 18:11 - 新幹線 → 19:20 新大阪			

Bグループ（東京発貸切バス利用）・Cグループ（大阪発貸切バス利用）

日次	月日	行程			
1	(B) 3/8(水) (C) 3/9(木)	<p>東京（羽田）9：25－ANA585→10：55 松山空港 松山空港－貸切バス→三津</p> <p>12：00～13：00 昼食は（B）木村家（三津）弁当作家による創作弁当 （C）次男坊寿司（三津）</p> <p>13：00～17：00 三津と道後を貸切バスで周る。 木村家（三津地区の旧家）～松山城～道後温泉界限 （ガイドは松山東雲短期大学教授の犬伏武彦氏）</p> <p>（夕食・宿泊）道後温泉 道後館</p>			
2	(B) 3/9(木) (C) 3/10(金)	<p>道後温泉 9：00－送迎バス→9：40 松山観光港 松山観光港 10：00～高速船～10：55 呉港</p> <p>11：00 大和ミュージアム見学（館内のボランティアガイドが案内）</p> <p>12：30 大和ミュージアム～音戸（呉市営ボンネットバス・ガイド付） （昼食）かつら（音戸）</p> <p>14：15 音戸（渡船・ボンネットバス）→呉市中心部 アレイからすこじま～歴史の見える丘～入船山記念館～海軍墓地</p> <p>17：30 ホテル到着（チェックイン，夕食）</p> <p>19：30～21：20 灰ヶ峰夜景ツアー</p> <p>（宿泊）呉阪急ホテル</p>			
3	(B) 3/10(金) (C) 3/11(土)	<p>呉駅 9：01－JR→10：05 竹原</p> <p>10：30 町並み保存地区ガイドンスツアー（江戸時代の町並み保存地区の主要スポットをガイド付きで周る）</p> <p>12：00～13：00（昼食）自由昼食</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p><午後選択メニューA> 町並み保存地区の体験ツアー ・町家の意匠めぐり ・酒蔵めぐり ・文化施設めぐり</p> <p>15:00 町並み保存地区にてアンケート記入・回収</p> </td> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p><午後選択メニューB> アヲハタジャム工房でジャムづくり体験（忠海地区）</p> <p>15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収</p> </td> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p><午後選択メニューC> 黒滝山ハイキングで瀬戸内海の眺望を楽しむ（忠海地区）</p> <p>15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収</p> </td> </tr> </table> <p>(B) 忠海－竹原－貸切バス→広島空港 17：10－ANA682→18：25 東京（羽田） (C) 竹原－忠海－貸切バス→三原駅 17:25－こだま 664 号→19：04 新大阪</p>	<p><午後選択メニューA> 町並み保存地区の体験ツアー ・町家の意匠めぐり ・酒蔵めぐり ・文化施設めぐり</p> <p>15:00 町並み保存地区にてアンケート記入・回収</p>	<p><午後選択メニューB> アヲハタジャム工房でジャムづくり体験（忠海地区）</p> <p>15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収</p>	<p><午後選択メニューC> 黒滝山ハイキングで瀬戸内海の眺望を楽しむ（忠海地区）</p> <p>15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収</p>
<p><午後選択メニューA> 町並み保存地区の体験ツアー ・町家の意匠めぐり ・酒蔵めぐり ・文化施設めぐり</p> <p>15:00 町並み保存地区にてアンケート記入・回収</p>	<p><午後選択メニューB> アヲハタジャム工房でジャムづくり体験（忠海地区）</p> <p>15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収</p>	<p><午後選択メニューC> 黒滝山ハイキングで瀬戸内海の眺望を楽しむ（忠海地区）</p> <p>15:00 忠海地区にてアンケート記入・回収</p>			

(3) 貸切バスの運行実績

貸切バス利用のB・Cグループについて、バスの実際の移動時間と距離を計測した。移動距離は両グループを平均すると172km、平均速度は28.3km/hであった。

モニターツアー Bグループ行程

	出発地	出発時間	到着地	到着時間	距離 (km)	所要時間 (分)	平均速度 (km/h)	使用バス
3月8日	松山空港	11:14	三津内港	11:27	5	13	23	瀬戸内バス
	★三津地区見学+昼食							
	三津内港	14:03	松山城駐車場	14:27	8	24	20	瀬戸内バス
	★松山城見学							
	松山城駐車場	16:21	道後館	16:31	3	10	18	瀬戸内バス
★道後散策 (宿泊)								
3月9日	道後館	8:58	松山観光港	9:21	11	23	29	瀬戸内バス
	松山→呉(高速船)							
	★大和ミュージアム見学							
	大和ミュージアム	12:33	音戸うずしお館	12:56	8	23	21	呉市ボンネット
	★音戸見学+昼食+渡船							
	渡し口(警固屋)	14:50	アレイからすこじま	14:57	4	7	34	呉市ボンネット
	★アレイからすこじま							
	アレイからすこじま	15:25	歴史の見える丘	15:29	1	4	15	呉市ボンネット
	★歴史の見える丘							
	歴史の見える丘	15:49	入船山記念館	15:53	1	4	15	呉市ボンネット
	★入船山記念館							
	入船山記念館	16:50	海軍墓地	17:01	2	11	11	呉市ボンネット
	★海軍墓地							
	海軍墓地	17:25	呉阪急ホテル	17:36	3	11	16	呉市ボンネット
	夕食							
呉阪急ホテル	19:34	灰ヶ峰	20:16	18	42	26	富士交通	
★灰ヶ峰夜景鑑賞								
灰ヶ峰	20:25	蔵本通り	21:10	—	—	—		
蔵本通り	21:15	呉阪急ホテル	21:18	17	48	21	富士交通	
(宿泊)								
3月10日	呉阪急ホテル	8:59	竹原町並み駐車場	10:11	44	72	37	瀬戸内バス
	★竹原町並み+昼食							
	竹原町並み駐車場	12:44	アヲハタジャム工場	13:01	11	17	39	瀬戸内バス
	★ジャム作り体験							
	アヲハタジャム工場	15:26	竹原町並み駐車場	15:42	—	—	—	
竹原町並み駐車場	15:45	広島空港	16:10	29	41	42	瀬戸内バス	

	距離 (km)	所要時間 (分)	平均速度 (km/h)
全行程	165	350	28.3

モニターツアー Cグループ行程

	出発地	出発時間	到着地	到着時間	距離 (km)	所要時間 (分)	平均速度 (km/h)	使用バス
3月9日	松山空港	10:55	三津内港	11:05	5	10	30	瀬戸内バス
★三津地区見学+昼食								
	三津内港	14:15	松山城駐車場	14:30	8	15	32	瀬戸内バス
★松山城見学								
	松山城駐車場	16:20	道後館	16:29	2	9	13	瀬戸内バス
★道後散策								
(宿泊)								
3月10日	道後館	9:00	松山観光港	9:25	11	25	26	瀬戸内バス
松山→呉								
★大和ミュージアム見学								
	大和ミュージアム	12:30	音戸うずしお館	13:00	8	30	16	呉市ボンネット
★音戸見学+昼食+渡船								
	渡し口(警固屋)	14:45	アレイからすこじま	15:00	4	15	16	呉市ボンネット
★アレイからすこじま								
	アレイからすこじま	15:20	歴史の見える丘	15:25	2	5	24	呉市ボンネット
★歴史の見える丘								
	歴史の見える丘	15:40	入船山記念館	15:50	2	10	12	呉市ボンネット
★入船山記念館								
	入船山記念館	16:50	海軍墓地	17:00	2	10	12	呉市ボンネット
★海軍墓地								
	海軍墓地	17:20	呉阪急ホテル	17:35	3	15	12	呉市ボンネット
夕食								
	呉阪急ホテル	19:30	灰ヶ峰	20:12	18	42	26	富士交通
★灰ヶ峰夜景鑑賞								
	灰ヶ峰	20:28	蔵本通り	21:00	—	—	—	
	蔵本通り	21:08	呉阪急ホテル	21:10	18	34	32	富士交通
(宿泊)								
3月11日	呉阪急ホテル	9:00	竹原町並み駐車場	10:23	46	83	33	富士交通
★竹原町並み+昼食								
	竹原町並み駐車場	12:56	アヲハタジャム工場	13:10	11	14	47	富士交通
★ジャム作り体験								
	アヲハタジャム工場	13:13	竹原町並み駐車場	13:28	11	15	44	富士交通
	竹原町並み駐車場	15:18	アヲハタジャム工場	15:34	11	16	41	富士交通
	アヲハタジャム工場	15:35	三原駅	16:07	17	32	32	富士交通

	距離 (km)	所要時間 (分)	平均速度 (km/h)
全行程	179	380	28.3

(4) モニターツアーにおけるスローツーリズム性

既存ツアーと比較すると、モニターツアーにおけるスローツーリズム的要素は次のようになっている。

モニターツアーにおけるスローツーリズム的要素

	モニターツアー		既存ツアー
	公共交通 (A)	貸切バス (B・C)	
訪問観光地	3	3	9
移動距離 (陸上部)	172km※1	172km※1	626km※2
交通手段	公共交通	貸切バス	貸切バス
観光内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主要観光地だけでなく周辺もまわる ・フリーパスによる自由行動 (松山) ・個別のボランティアガイドによる案内 (呉) ・オプションコース (呉) ・現地ガイドの案内 (竹原) ・学習, 体験, 登山などから選択型のメニュー (竹原) ・路線バス, 路面電車, 渡船で自由移動 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要観光地だけでなく周辺もまわる ・専門家による案内 (松山) ・渡船やボンネットバス (松山, 呉) ・ボランティアガイドによる案内 (呉) ・現地ガイドの案内 (竹原) ・学習, 体験, 登山などから選択型のメニュー (竹原) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要観光地をまわる ・バスガイドによる案内 ・現地ガイド・オプションツアーを含む場合もある

※1 観光施設間の移動距離 (実測ベース)

※2 都市間の移動距離

Aグループ：公共交通利用



・観光マップを手に松山市内を自由に散策 (路面電車の道後温泉駅) (電車バスフリー一切符 400 円)



・公共交通利用の場合は路線バスなど「待ち時間」がある。(道後発松山観光港行きのリムジンバス停留所)



・呉駅前から音戸方面に行く路線バスの車中。



・路線バスから下りて音戸に渡る渡船に乗船。



・旧呉鎮守府庁舎では海上自衛隊の広報部の方の説明を受けた。



・竹原では、最初に全員一緒に町並み保存地区をガイド付きで見学。その後は、意匠巡り、酒蔵巡り、ジャムづくり体験、黒滝山ハイキングなどのメニューから選択。

B・Cグループ：貸切バス利用



・松山では建築の専門家（大学の先生）のガイドで、三津地区、松山城、道後界限を見学した。



・三津の渡しに乗船。市道のため料金は無料。



・呉の周遊はボンネットバス。



・音戸の渡船にも乗船。



・観光ボランティアガイドが呉を案内。



・竹原では、最初に全員一緒に町並み保存地区をガイド付きで見学。その後は、意匠巡り、酒蔵巡り、ジャムづくり体験、黒滝山ハイキングなどのメニューから選択。



・酒蔵での試飲の様子。



・ジャムづくり体験は作ったジャムを持って帰ることができる。

2. モニターツアーの評価

(1) 一般消費者モニターによる評価

ア. 調査手法

①調査対象

首都圏と関西圏居住者で、大手旅行会社の顧客リストにより、旅行経験の豊富な人をモニターとした。なお、モニターは、1グループ20人で3グループ（関西圏公共交通利用、首都圏貸切バス利用、関西圏貸切バス利用）60人とした。

②調査時期

平成18年3月7日（火）～11日（土）

※ 関西圏公共交通利用：3月7～9日、首都圏貸切バス利用：3月8～10日、関西圏貸切バス利用：3月9～11日

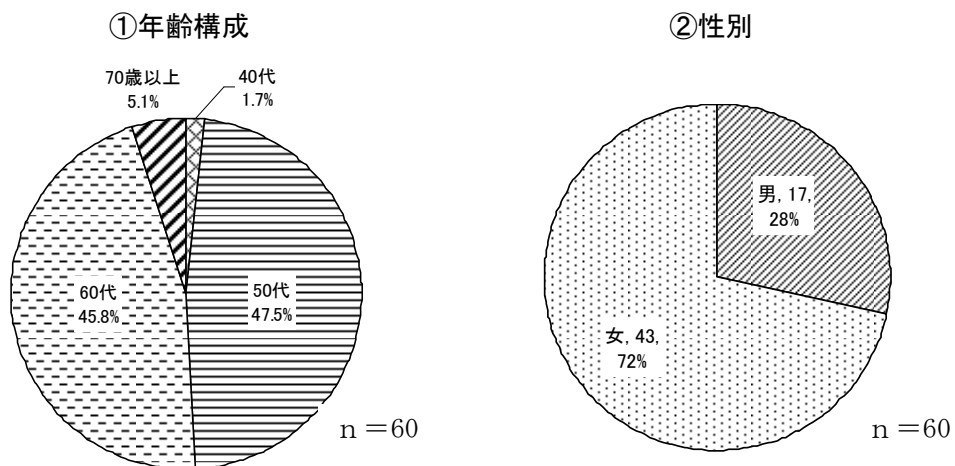
③配布・回収方法

旅行前に郵送または手渡しで配布し、モニターツアー最終日に手渡しで回収。

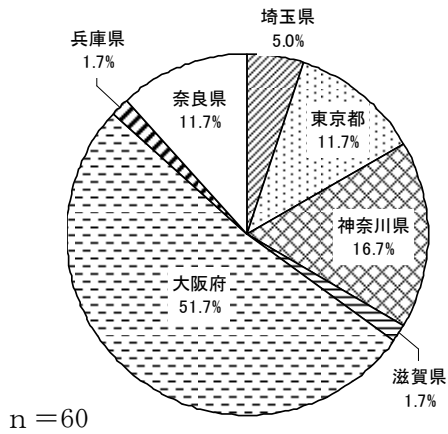
イ. 回答者属性

○今回のモニターツアー参加者は、50代、60代の人を中心であった。

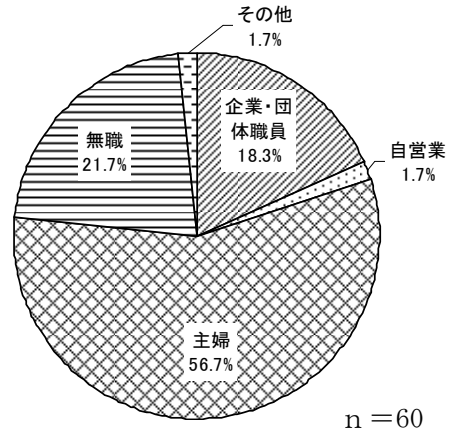
○参加者は、夫婦または女性の友人グループであり、女性7割、男性3割の構成となった。



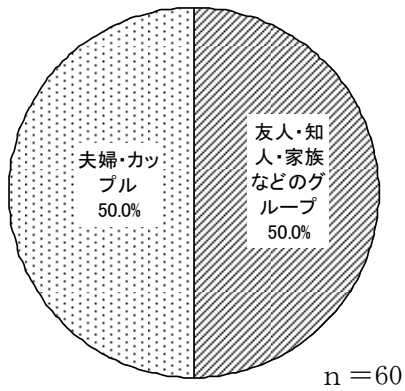
③居住地



④職業

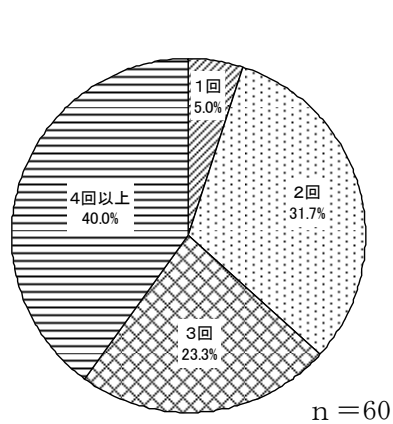


⑤今回の旅行参加形態

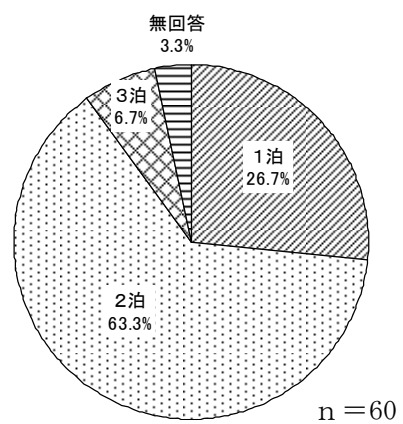


- モニターツアー参加者の旅行傾向は、宿泊を伴う国内観光旅行を年間4回以上する人が4割と最も多くなっており、旅慣れた人が多くなっている。
- 1回の旅行での平均宿泊数は2泊が3分の2を占めている。

⑥昨年1年間の宿泊を伴う国内観光旅行回数

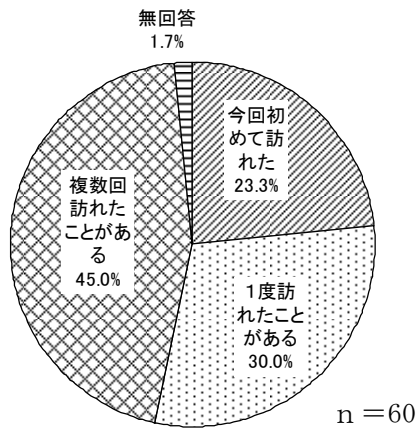


⑦平均宿泊数



○瀬戸内海地域の旅行経験をみると、今回が初めてという人は2割程度であり、半分近い人が複数回訪れたことがあると回答している。

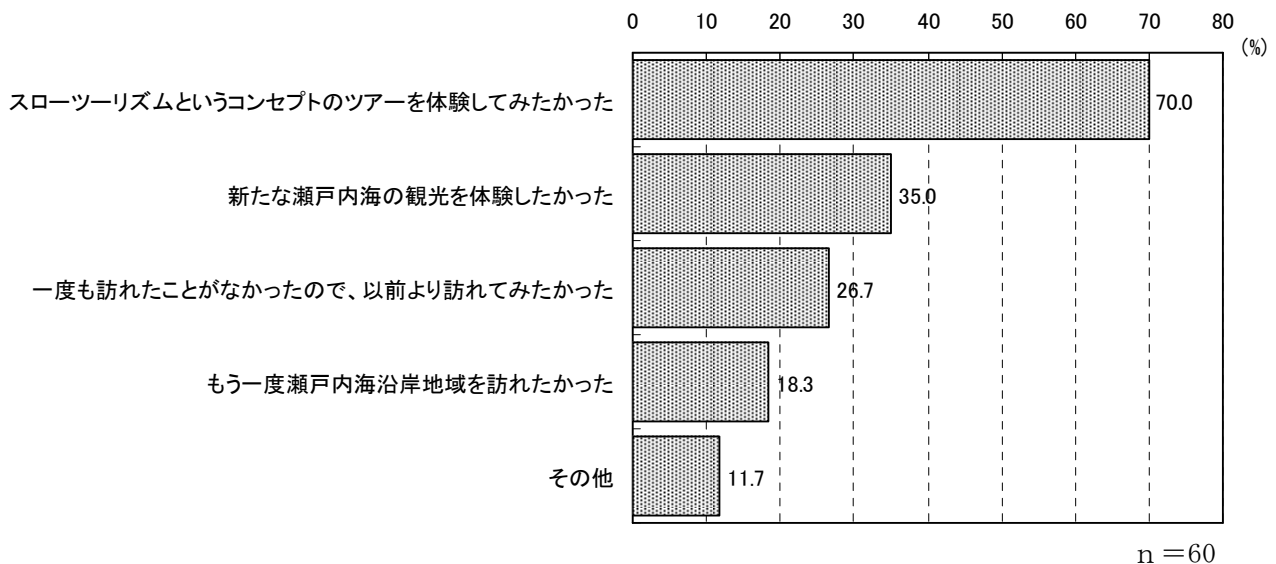
⑧瀬戸内海地域への旅行経験



⑨モニターツアーへの参加動機 (複数回答)

○今回のモニターツアーへの参加動機をみると、「スロートーリズムというコンセプトのツアーを体験してみたかった」とする人が3分の2以上となっている。

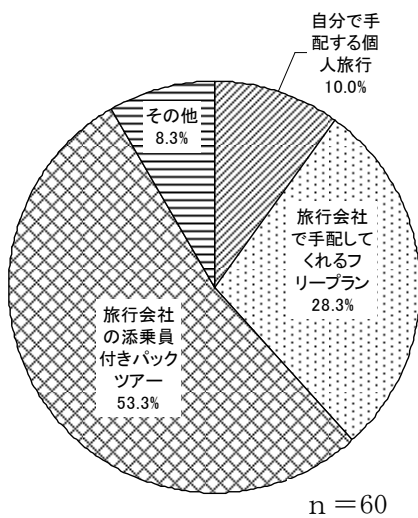
○また、「新たな瀬戸内海の観光を体験したかった」とする人も3分の1以上おり、旅行に対し、新たな発見を求める旅行者も一定程度いることが分かった。



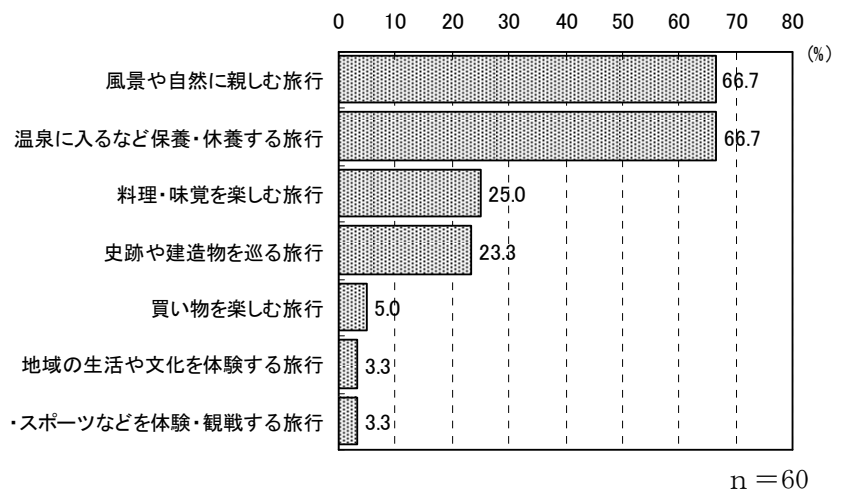
ウ. モニターツアー参加者の日常生活の状況

- モニター参加者の旅行の好みは、「旅行会社の添乗員付きパックツアー」が5割以上となり、「旅行会社で手配してくれるフリープラン」も3割程度あり、「自分で手配する個人旅行」は1割程度で少なくなっている。
- これは、募集方法が旅行代理店の顧客リストに登録されている人に対し行ったことなどが影響しているものと考えられる。
- 旅行目的では、3分の2の人が「温泉に入るなど保養・休養する旅行」と「風景や自然に親しむ旅行」と回答しており、これに「料理・味覚を楽しむ旅行」「史跡や建造物を巡る旅行」が続いている。

①旅行の好み

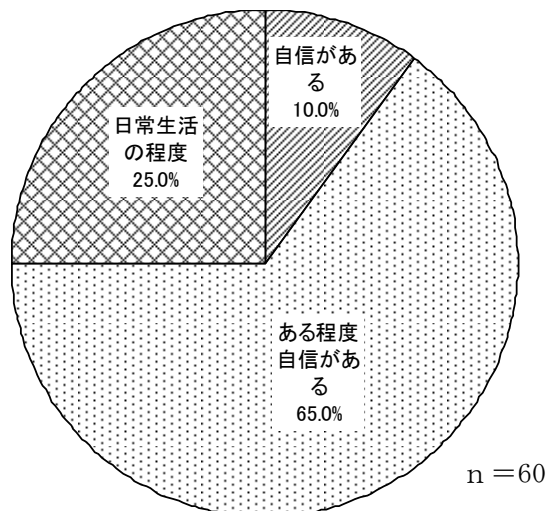


②旅行目的 (複数回答)



③徒歩の自信

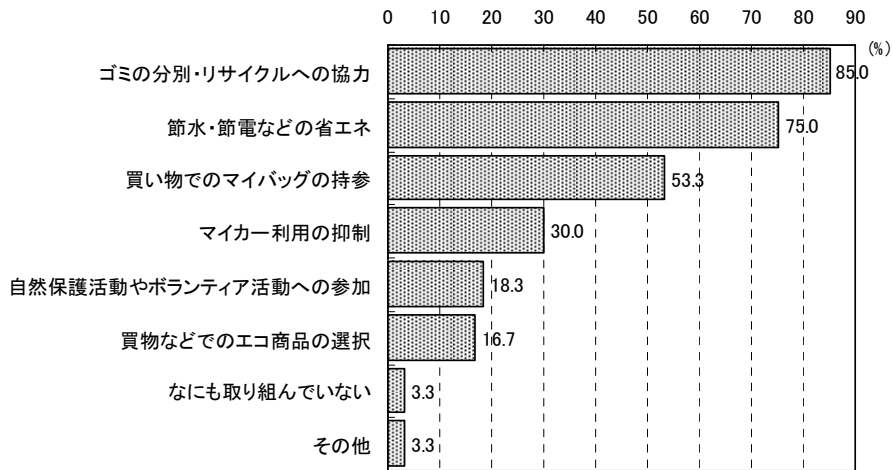
- 今回のモニターツアーでは、ゆっくりと各地域を散策するプログラムが多く盛り込まれているため、各参加者の徒歩での行動の自信を尋ねた。これによると、自信があると回答されたのは1割であり、多くの人は「ある程度自信がある」という人だった。



④環境に対する取組状況（複数回答）

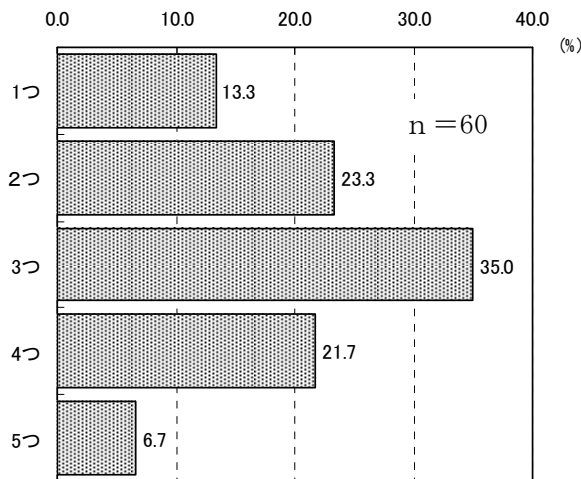
○環境に対する認識を、日常生活での取組状況でみると、「ゴミの分別・リサイクルへの協力」が8割以上の人を取り組んでおり、「節水・節電などの省エネ」も7割以上の人を取り組むなど、多くの項目でウェブアンケートの結果よりも高い結果となっており、環境意識の比較的高い人が多くなっている。

○また、取組数でも、多くの人が複数の取り組みを行っており、この点でもウェブアンケートの結果よりも環境意識が高い人が多くなっていることがうかがえる。



n = 60

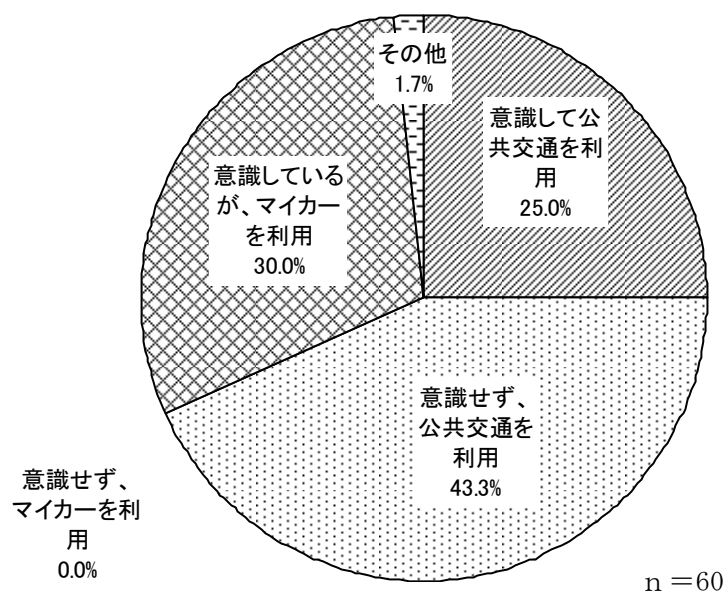
(環境に対する取組数)



= 60

⑤移動手段としての公共交通利用の考え方

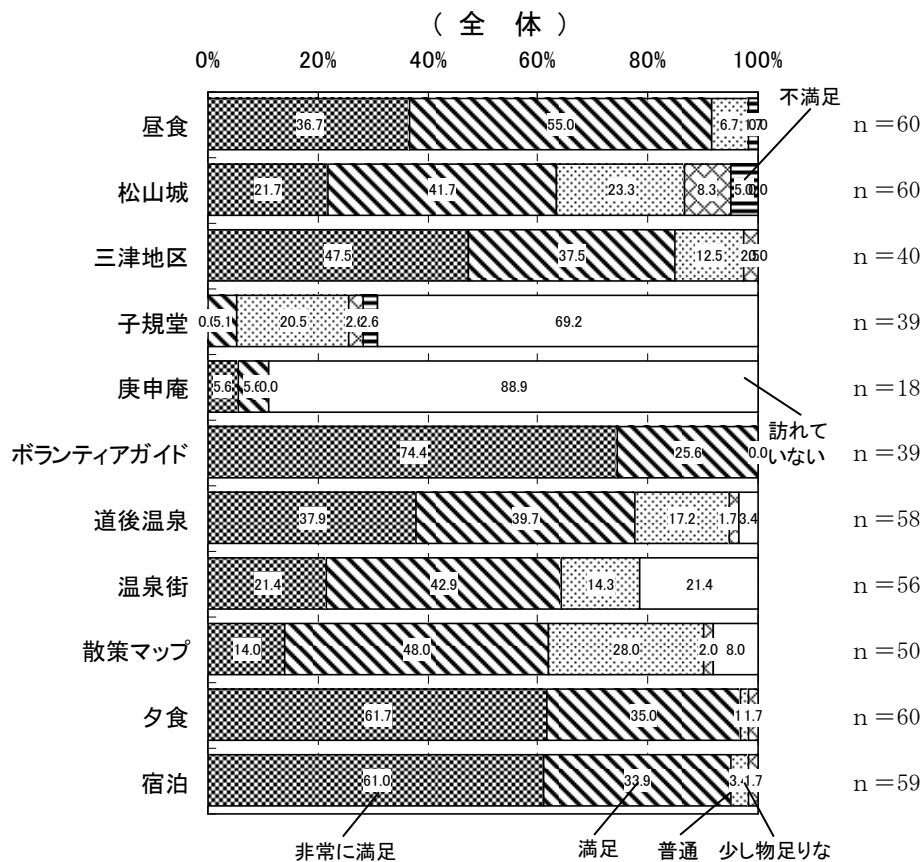
- 参加者の環境意識をさらに把握するため、日常の移動手段における公共交通利用の考え方を尋ねた。これによると、「環境問題を意識して公共交通を利用する」人は4分の1程度であり、「環境問題は意識しているが、マイカーを利用することが多い」人が3割いる。
- つまり、半分以上の人は環境問題に対し、公共交通の利用が有効であるとの認識を持っているが、環境問題を意識していても、マイカー利用から公共交通利用にシフトできている人は半分以下に止まっているといえる。



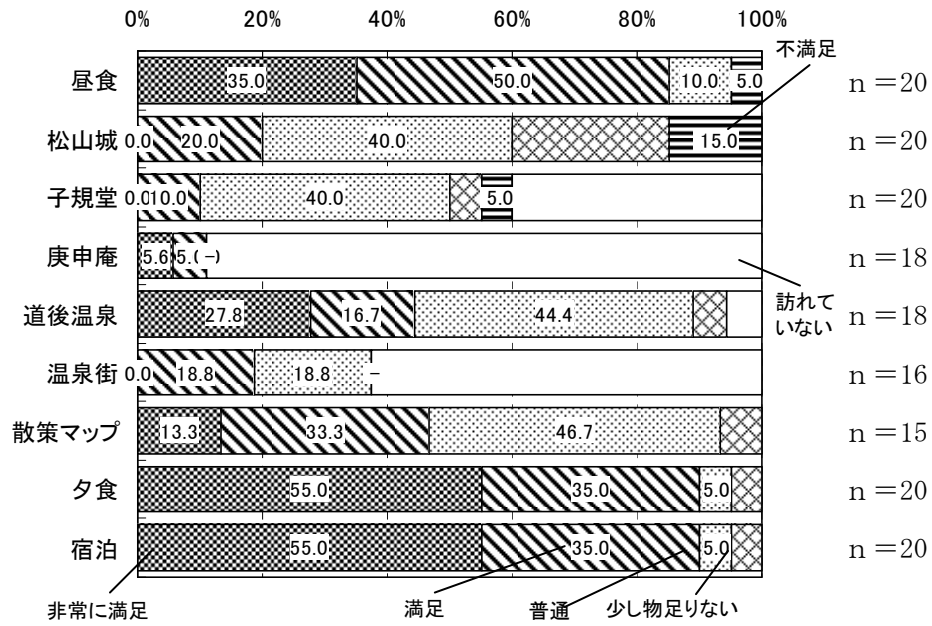
エ. 訪問地の資源評価

① 松山市の観光資源・集客サービスの評価

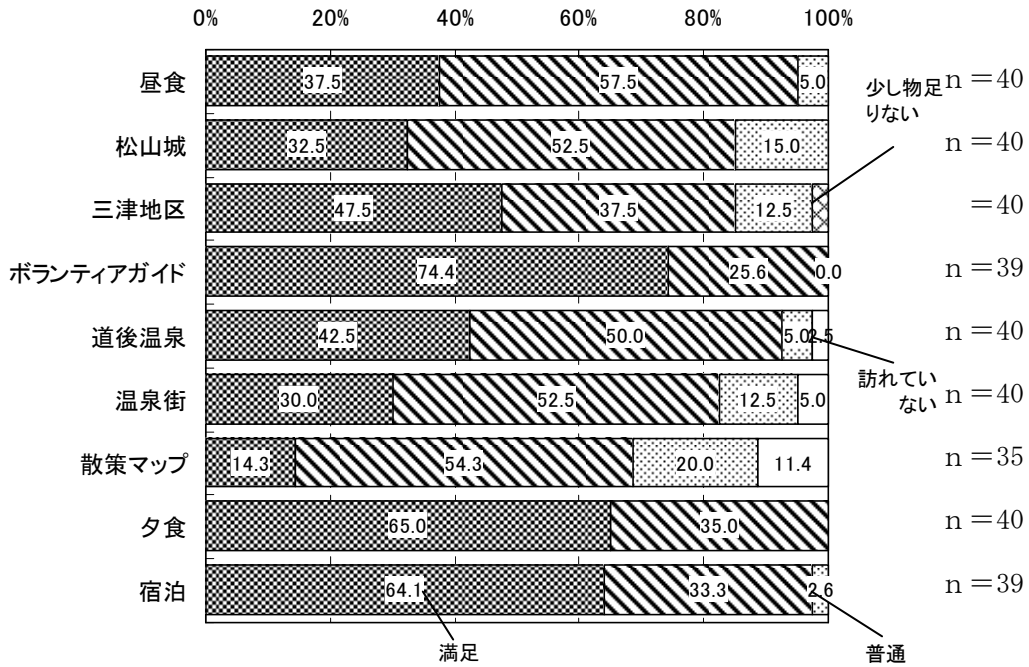
- 松山市の観光資源・集客サービスの評価をみると、スロートーリズム的要素として設定したボランティアガイド（貸切バス利用者）の評価が高くなっている。
- 公共交通利用者と貸切バス利用者を比較すると、ボランティアガイドの付かなかった公共交通利用者では、既存観光地である「松山城」の評価が「満足」に止まっているのに対し、ボランティアガイドが付いた貸切バス利用者では「非常に満足」と回答する人が3割以上あり、「満足」を含めると、8割以上に達し、既存観光地でも、ボランティアガイドなど付加的サービスがあれば、従来以上の満足度が提供できるといえる。
- また、貸切バス利用者は既存ツアーでは巡ることのない三津地区や道後温泉の周辺散策を行っており、これもボランティアガイドの解説が加わったことで、高く評価された。
- 公共交通利用者からの意見では、各観光施設へのアクセス表示・休館日などの情報不足などが指摘されており、さらなる個人旅行者への情報提供方策の検討が必要である。



(公共交通利用者)



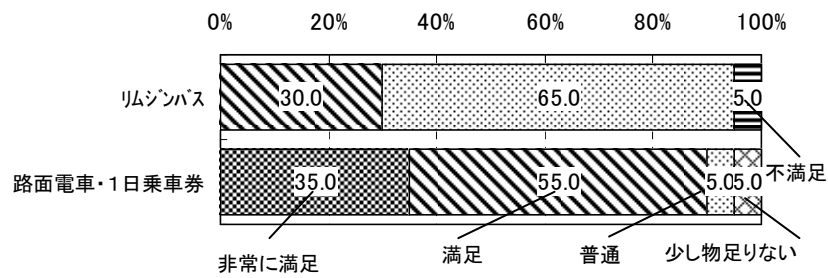
(貸切バス利用者)



② 松山市の移動手段の評価（公共交通利用者のみ）

○公共交通利用者による松山市内の移動手段の評価をみると、空港－市内間のリムジンバスは他の都市の空港－都心間移動のバスとあまり変わらないなどの意見から「普通」という回答が多くなった。

○一方、市内路面電車の1日乗車券は好評であり、9割の人が満足と回答している。特に、路面電車・坊ちゃん列車への乗車体験や運転手の親切な対応などを挙げて、高く評価する意見がみられた。



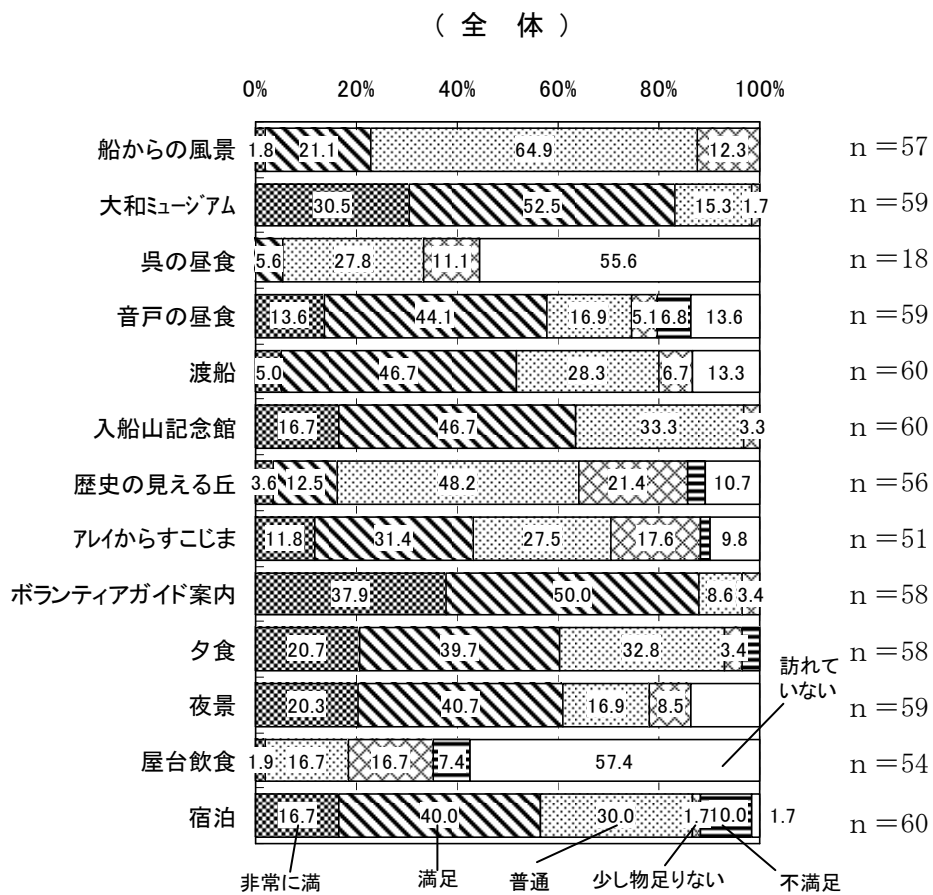
n = 20

③ 呉市の観光資源・集客サービスの評価

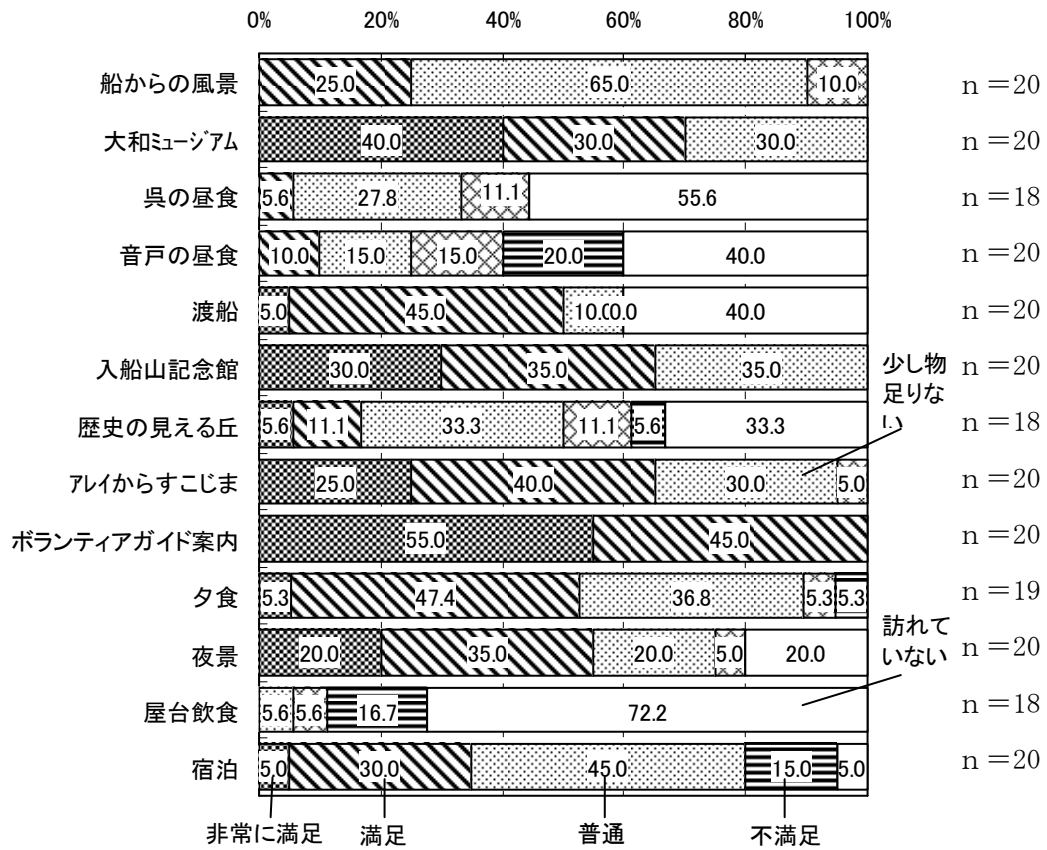
○呉市の観光資源・集客サービスの評価をみると、ボランティアガイドによる案内が高く評価されており、ボランティアガイドの人の熱意や高い知識に感心したという声が多く出された。また、新たな観光施設である大和ミュージアムも8割以上の人が満足している。

○公共交通利用者と貸切バス利用者を比較すると、公共交通利用者では、参加者2人1組にボランティアガイドが1人付き、参加者の要望に応じたコース設定をしたため、各観光資源の評価も高くなった。

○一方、貸切バス利用者では、ボランティアガイドが全体に1人しか付かなかった観光ポイントがあり、ガイドの説明が聞こえないなどの問題もあり、公共交通利用者と比較すると評価が低くなっている場合もある。



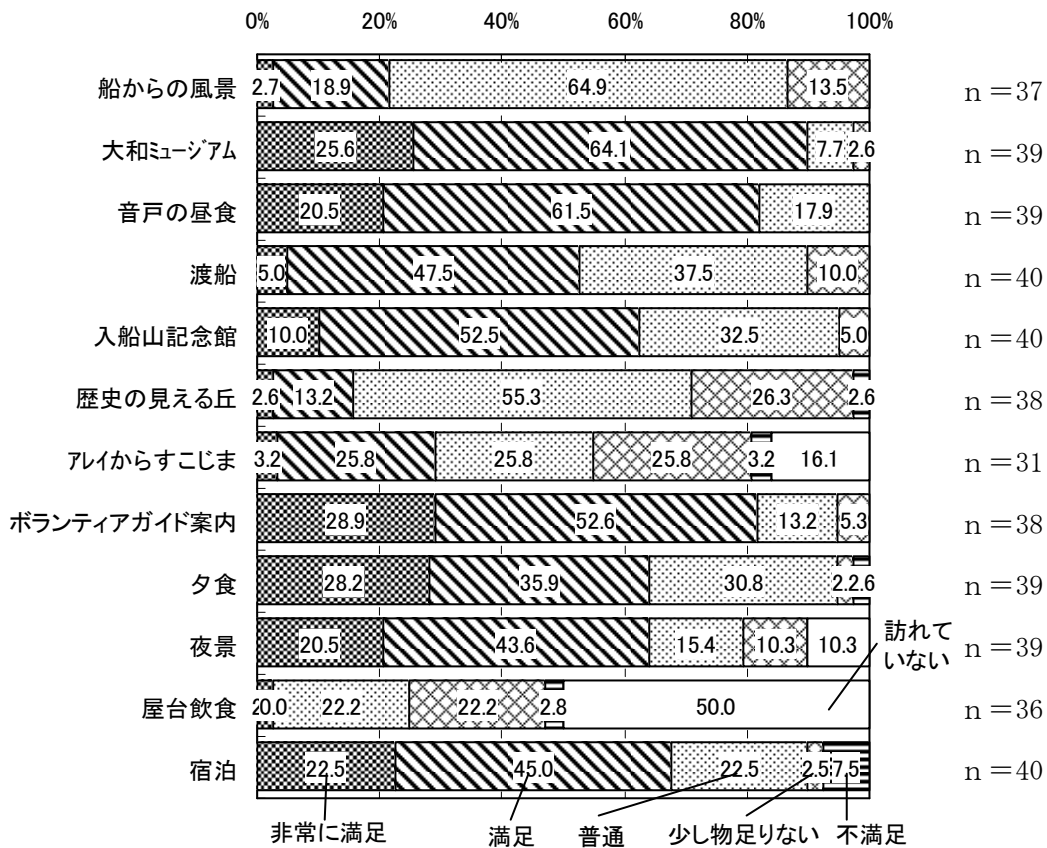
(公共交通利用者)



少し物足りない

訪れていない

(貸切バス利用者)



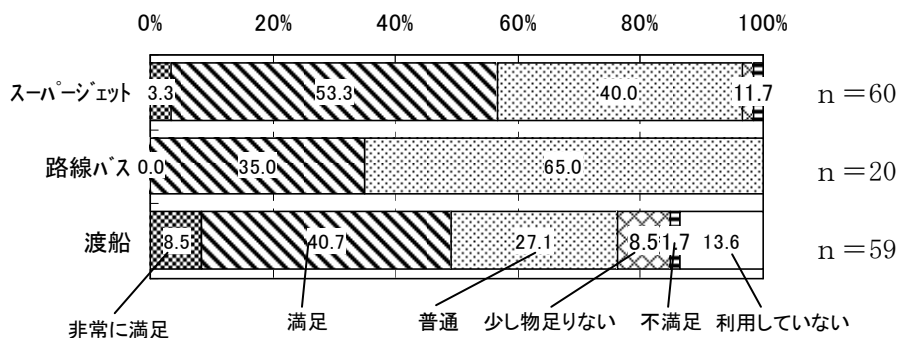
訪れていない

④ 2日目の移動手段の評価

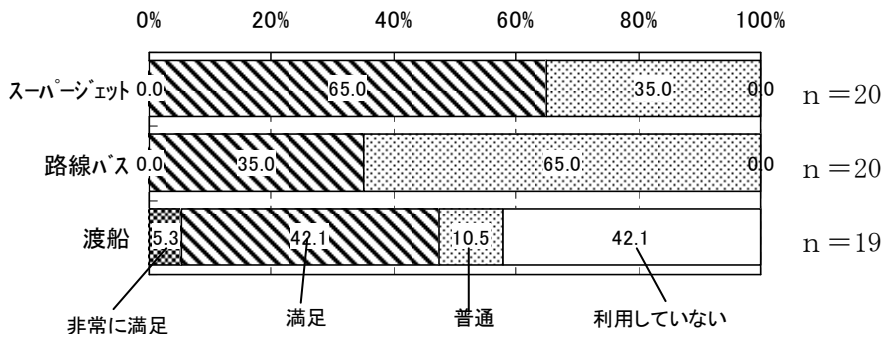
○2日目の移動手段の評価をみると、松山－呉間のスーパージェットは、当日の天候などでの揺れや座席の位置が悪く外の眺望が体験できなかったなどの不満の声もあったが、早さ・清潔さなどの点で満足という意見が多くなっている。

○公共交通利用者の一部と貸切バス利用者が体験した音戸の渡船は、設備の古さなどを不満とする声もあったが、瀬戸内海の海を身近に体験できた点や、地元の人が日常的に利用している状況に触れられたなど、スローツーリズム的な要素として評価する意見も多くみられた。

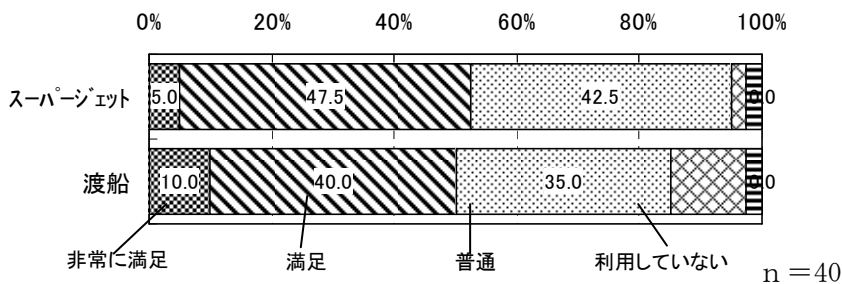
(全体)



(公共交通利用者)



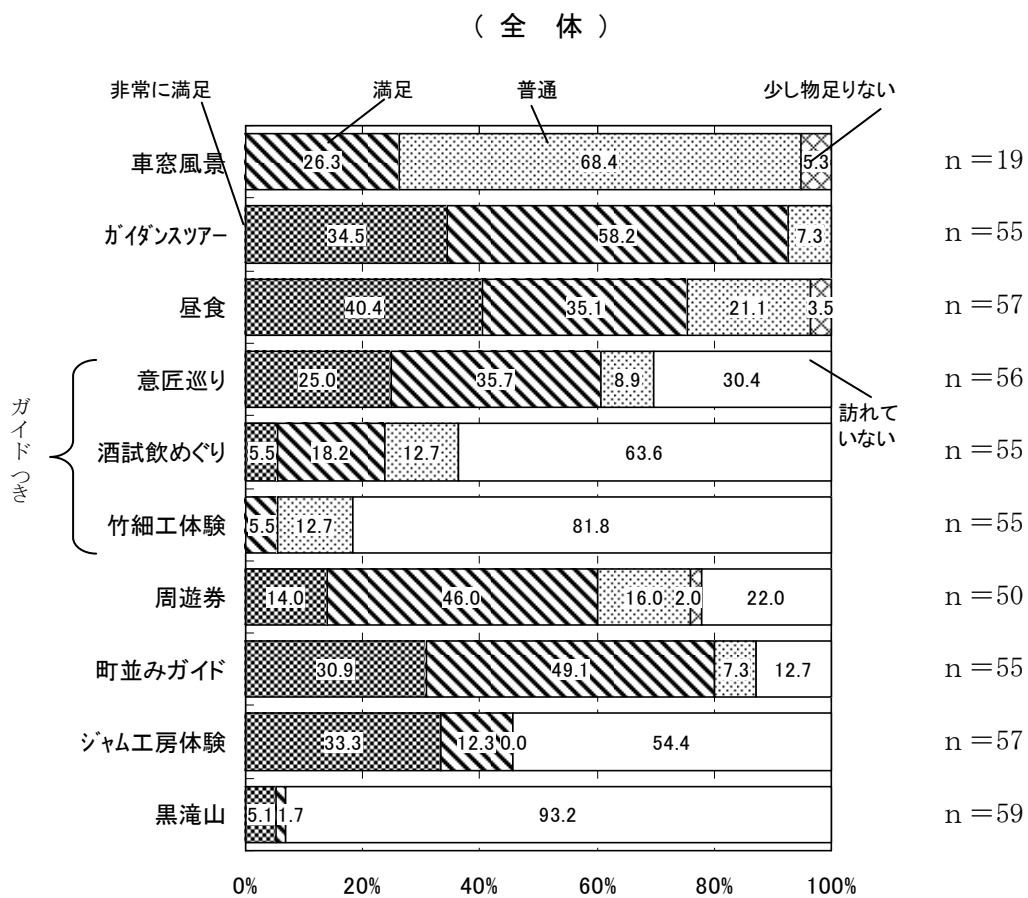
(貸切バス利用者)



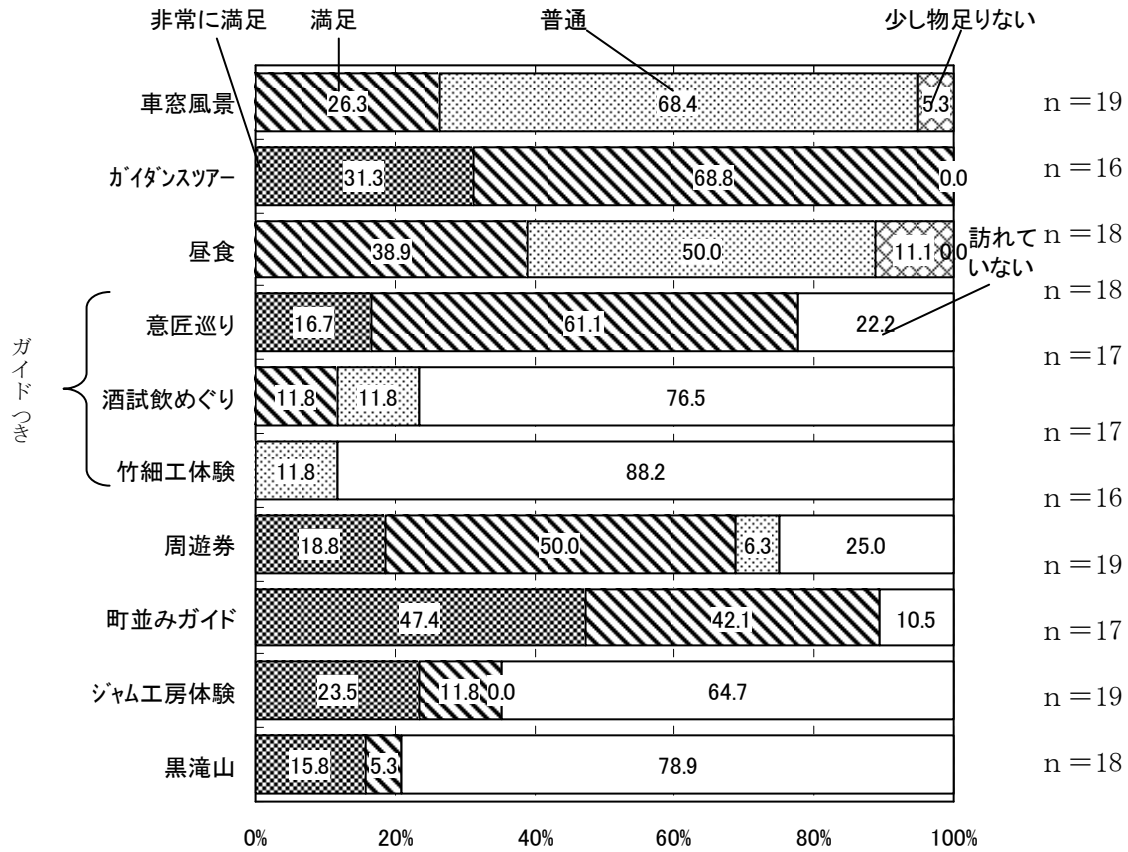
⑤ 竹原市の観光資源・集客サービスの評価

○竹原市の観光資源・集客サービスの評価をみると、ガイドによるガイドンスツアーの評価が高かった。また、午後のメニューを選択制としたため、訪れていないという回答が多くなっているが、地域の生活と一体的に整備された町並み保存地区の雰囲気の良い、住民との触れ合いなどがあったことが評価されている。また、ジャムづくり体験や黒滝山ハイキングも満足度は高くなっている。

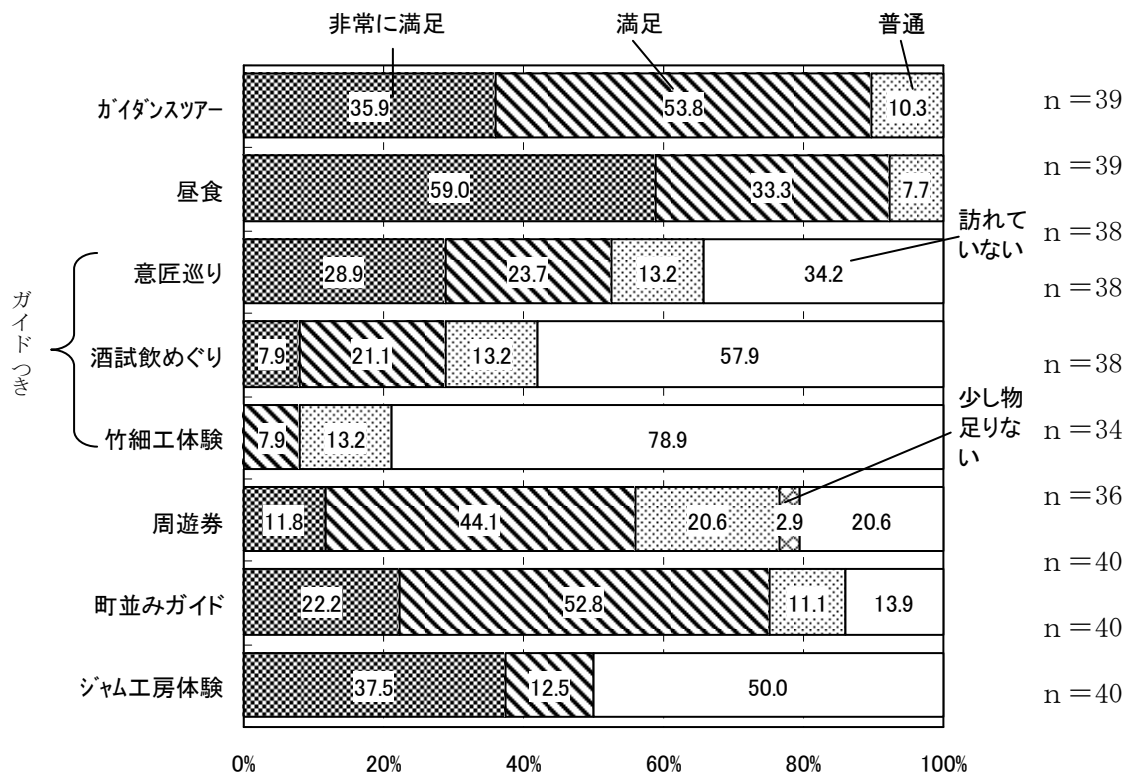
○公共交通利用者と貸切バス利用者を比較すると、若干差がみられるが、具体的な理由のコメントからみると、当日のガイドの説明の仕方など、ガイドの経験などにより評価が左右されたものと考えられる。



(公共交通利用者)

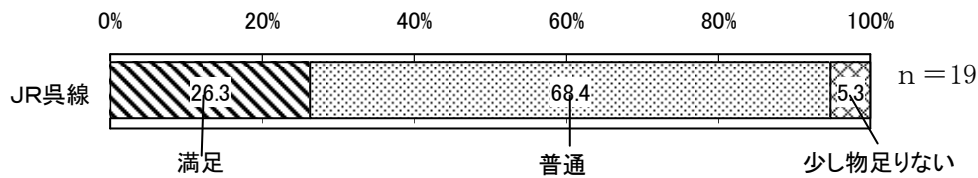


(貸切バス利用者)



⑥ 3日目の移動手段の評価（公共交通利用者のみ）

○3日目の呉－竹原間、竹原－忠海間のJR呉線の評価をみると、ローカルの単線の雰囲気を楽しむことができたという意見もあったが、一般的なローカル線の印象と変わらないという意見が多くなっている。



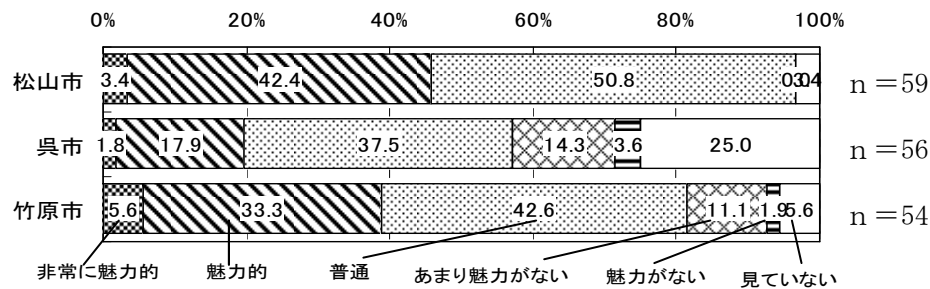
⑦ 土産物の印象

○土産物の印象をみると、ほとんどの地域で時間的な余裕がなく、土産物選びがじっくりできなかったという意見が多かった。

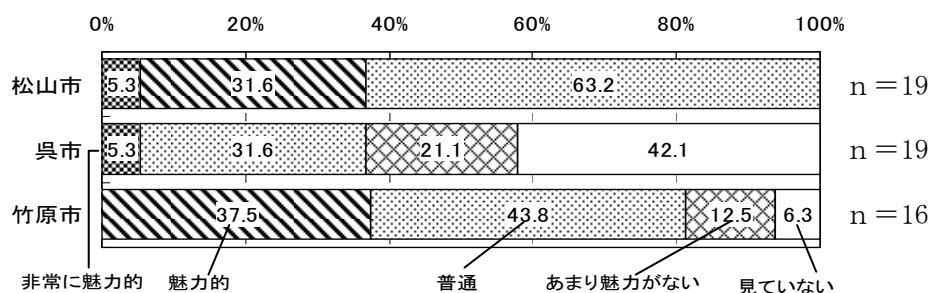
○松山市については、有名なお菓子・食材などがあるため、それらを購入した人が多かったが、呉市・竹原市では知名度の高い土産物が無く、何を買えば良いのかわからないという意見があった。

○なお、呉市・竹原市でのお土産物の購入に当たっては、地元ガイドからの口コミにより購入したという意見も多くなっている。

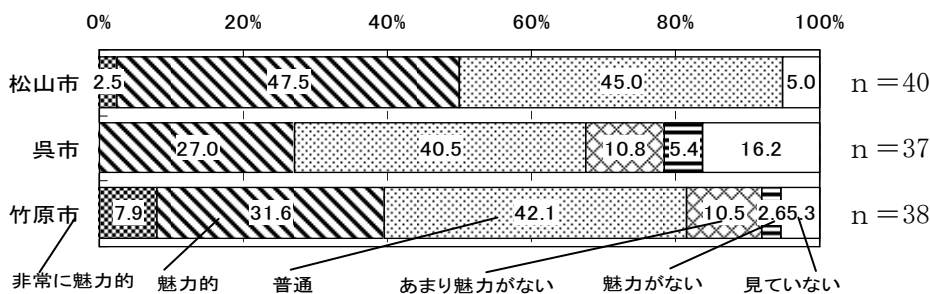
(全体)



(公共交通利用者)

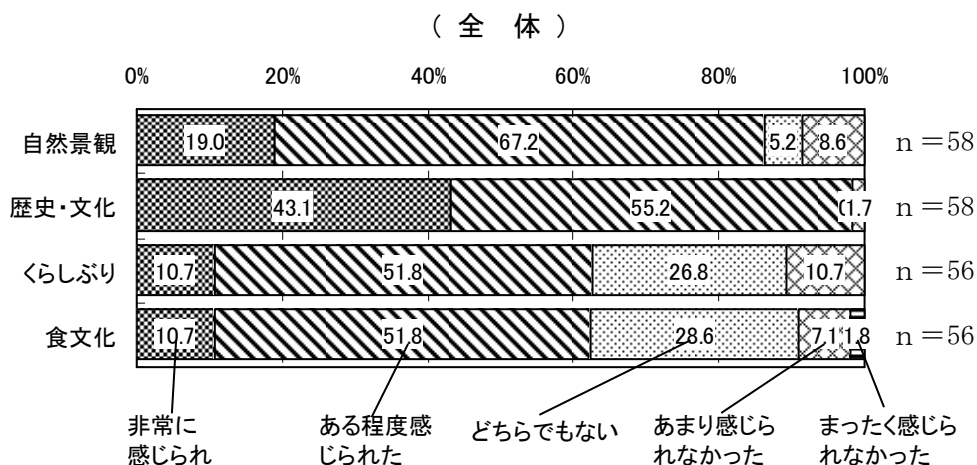


(貸切バス利用者)

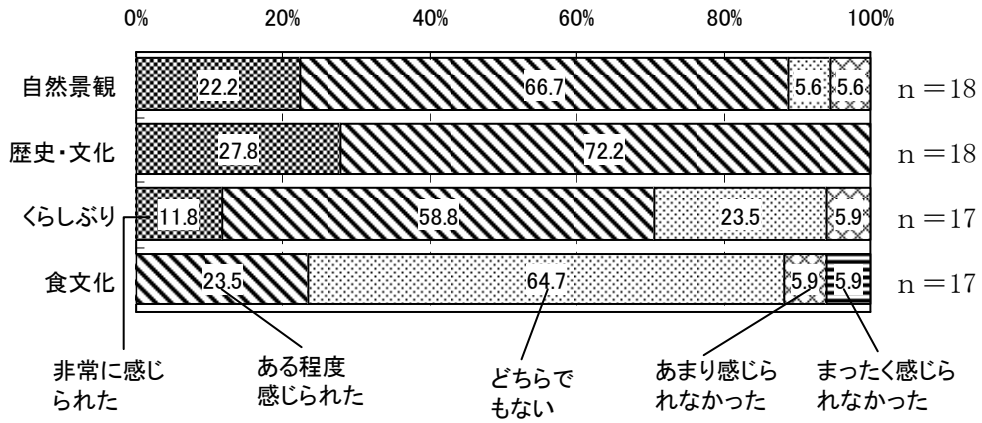


オ. 瀬戸内海らしさについて

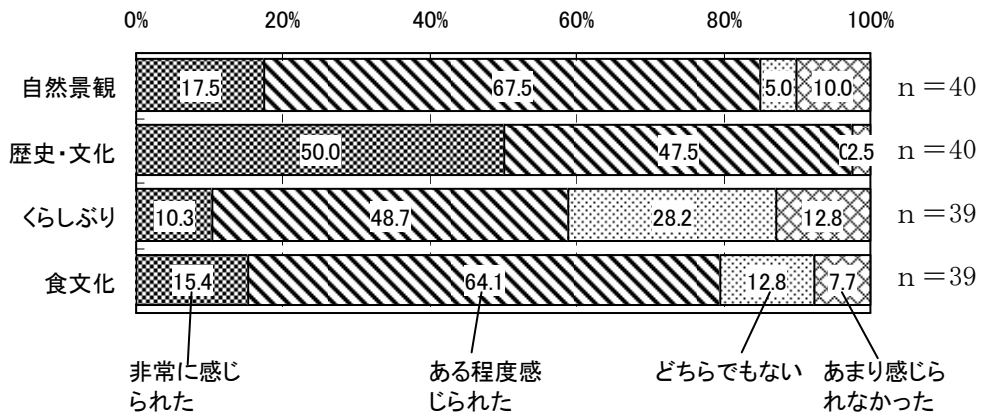
- 瀬戸内海らしさとしては、自由意見で、瀬戸内海に浮かぶ小さな島々や、海の見える風景、漁村・新鮮な魚などのイメージが挙げられているが、実際に訪れたことで、地域の文化（松山市：三津浜地区・道後地区，呉市：軍港，音戸の瀬戸，竹原市：塩の歴史）や町並みなども含め、瀬戸内海らしさとして感じられたという意見があった。
- このモニターツアーでの瀬戸内海らしさの評価では、ボランティアガイドによる説明などが付いたことにより、歴史・文化から瀬戸内海らしさを感じる人が多くなっている。また自然景観については、多島美などを評価する声はあるが、コース的に自然景観に絞った内容が少なかった点を残念がる声もあった。
- くらしぶりは、一部に地元の人々とのふれあいもあったが、十分に感じるほどではなかったとする意見が多くなっている。
- 食文化は、魚料理などある程度瀬戸内海らしさを感じてもらえたが、全国的に食文化が平準化されていて、瀬戸内海らしさが薄れているという意見もあった。
- 貸切バス利用者を見ると、歴史・文化で瀬戸内海らしさを感じた人が多くなっている。また、食文化についても「非常に感じられた」と回答した人が多い。



(公共交通利用者)



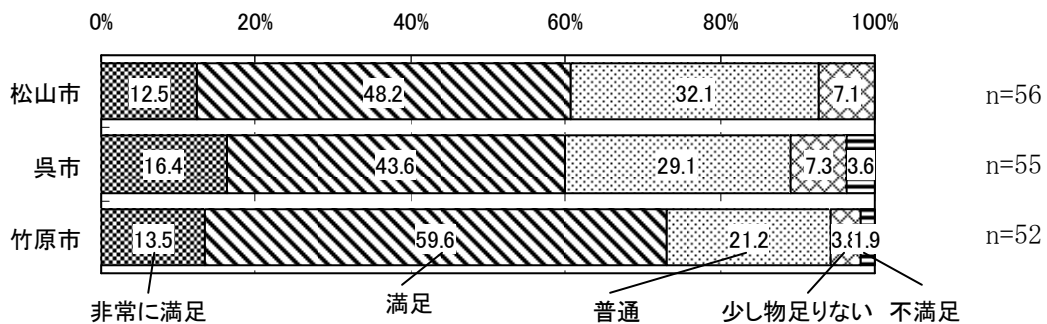
(貸切バス利用者)



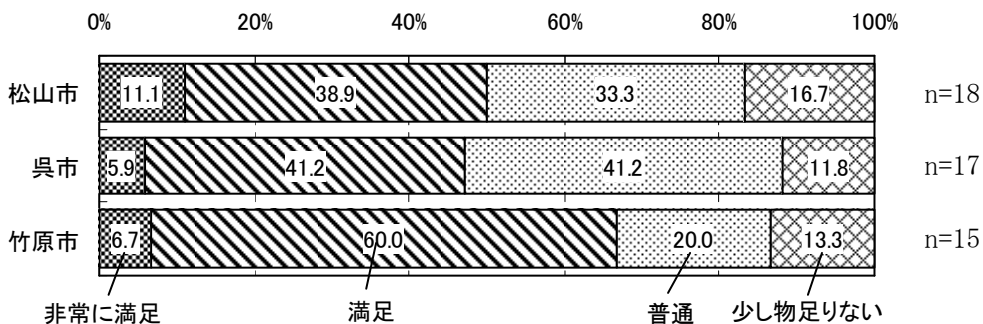
カ. 移動のしやすさ（「観光案内や誘導掲示板」「観光マップ(周遊マップ)」「ガイドや観光施設従業員の説明」「観光施設や交通機関の段差などバリアフリーへの配慮」など）について

- 各都市の移動のしやすさをみると、ほとんどがガイド付での行動だったため、スムーズな移動ができたという評価であったが、松山市・呉市の場合、ガイドがない場合の不安を指摘する声もあった。
- 一方、竹原市は他2都市と比較し、満足度が高くなっている。これは、観光地が町並み保存地区に集中しており、徒歩での移動だけで完結できるという点が評価されている。ただし、町並み保存地区内での車の通過などで問題を感じたという意見もあった。
- 公共交通利用者と貸切バス利用者で比較すると、貸切バス利用者は、すべてにガイドがついていたため、公共交通利用者と比較すると満足度が高くなっている。
- 公共交通利用者の意見では、各路線バスの乗り降りの不便さを指摘する声や、竹原駅のバリアフリー対策の必要性などを指摘する声があった。

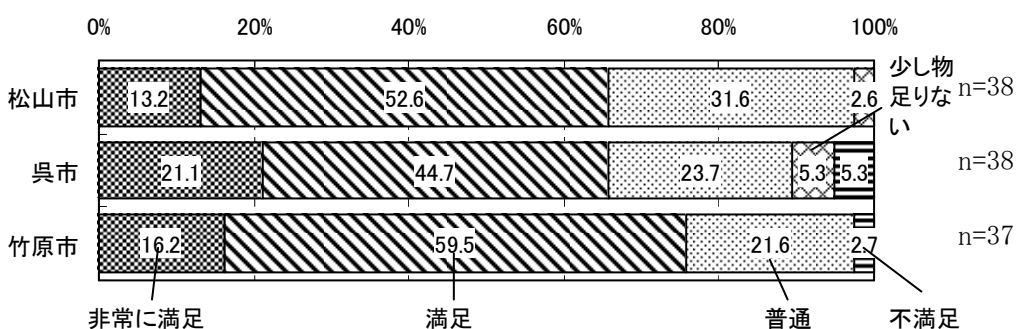
(全体)



(公共交通利用者)

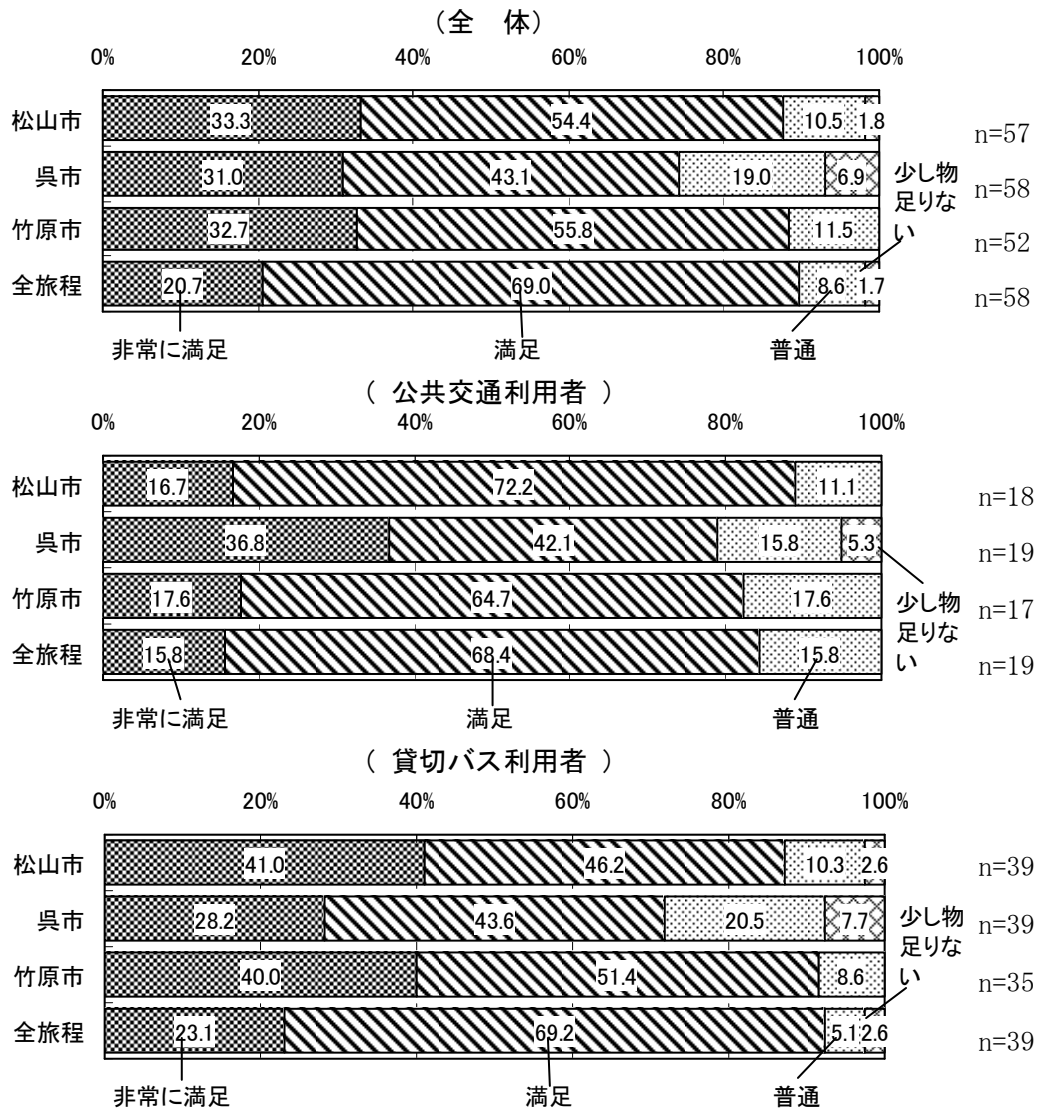


(貸切バス利用者)



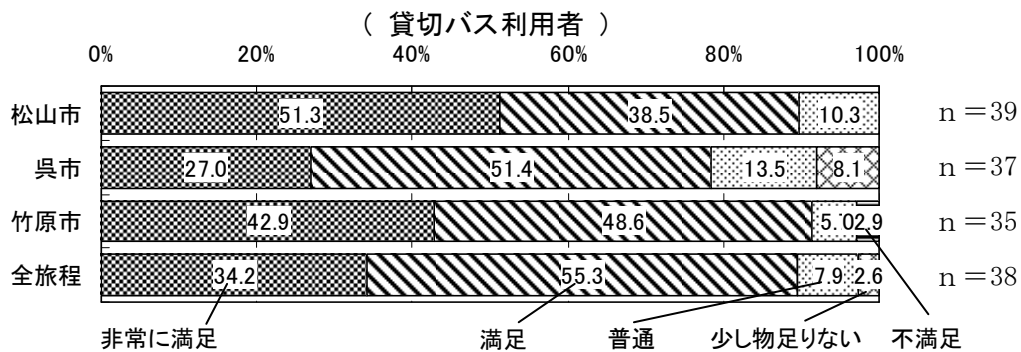
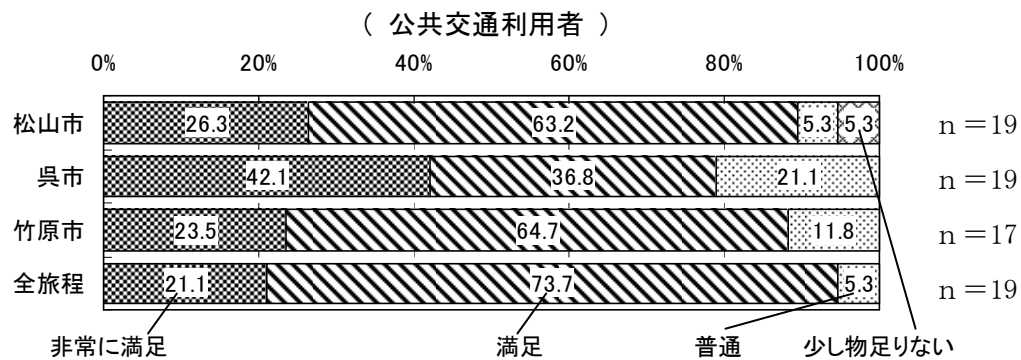
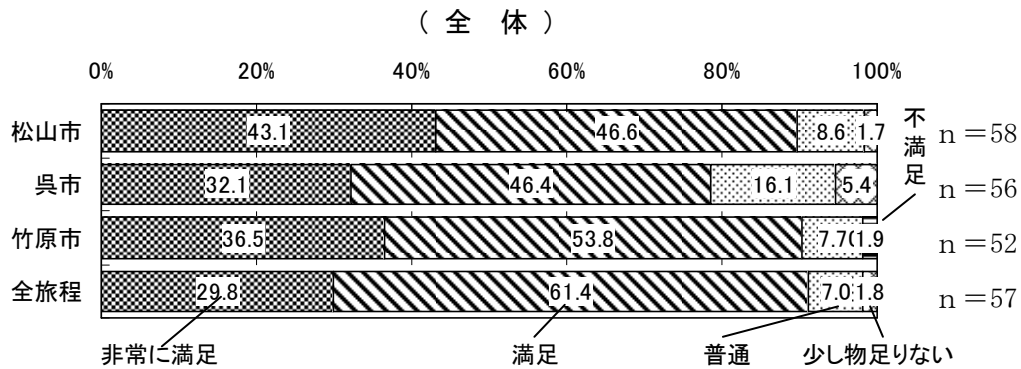
キ. 観光地・観光サービスの評価

- 各都市ともに3割程度が非常に満足と回答しており、5～6割が満足と回答している。
- 松山市では観光地としてのレベルの高さに加え、貸切バス利用者が体験したガイド（専門家）の内容が高い評価を受けた。
- 呉市ではボランティアガイドの親切さ・熱心さが評価された。
- 竹原市では、町並み保存地区の整備水準やガイドの案内が高く評価された。
- 全旅程では、既存観光地に加え、既存ツアーでは見ることのできない施設、サービスに触れたことが満足度を高め、スロートーリズムというコンセプトを評価する意見が多く出された。しかし、全般的に観光内容を詰め込み過ぎた点を指摘し、「スロー」という点で改善の必要性が指摘されており、その部分が「非常に満足」とする人が2割程度に止まった原因となっていると考えられる。
- なお、公共交通利用者と貸切バス利用者で、各都市の評価が異なっているが、これは、利用交通機関による格差よりも、体験したメニュー・サービス（ボランティアガイドの対応方法など）の内容に起因するものと考えられる。



ク. もてなしの雰囲気の評価

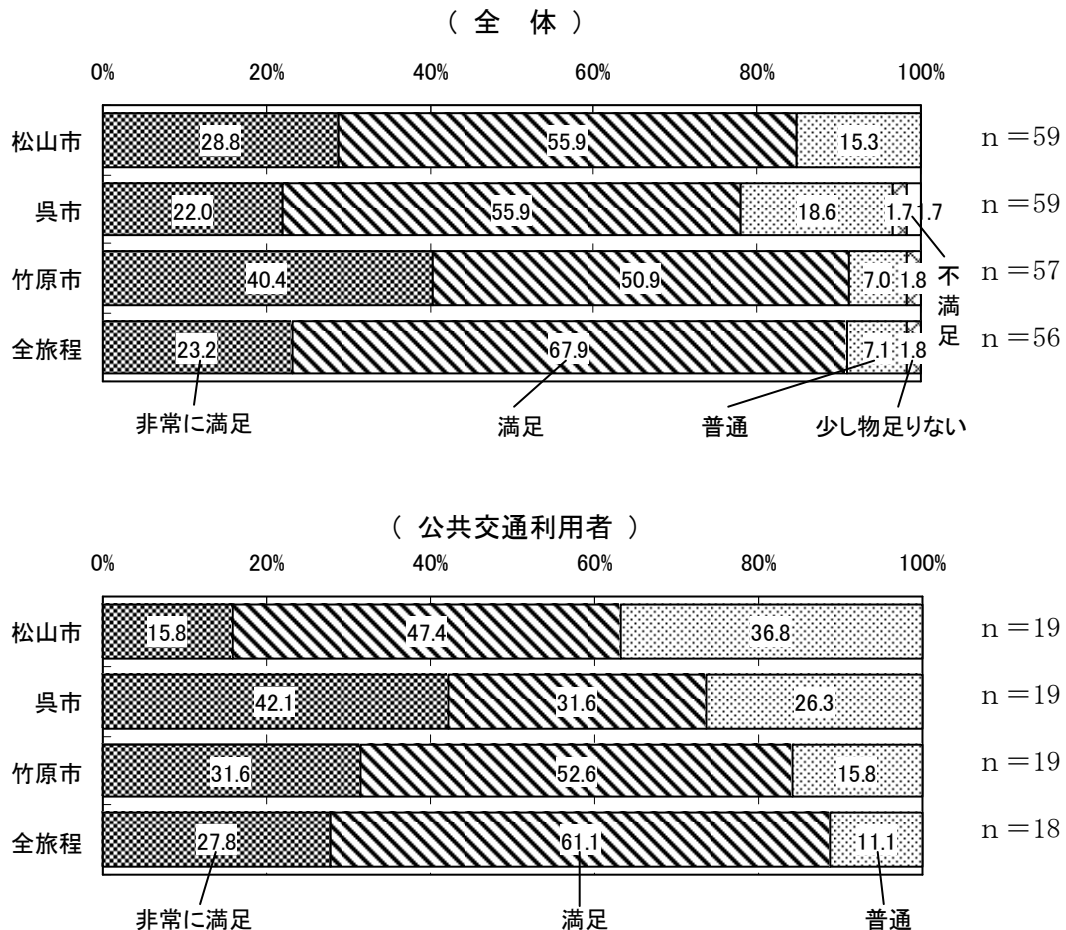
- 松山市は、観光地としての旅館のサービス水準の高さや、公共交通利用者は地元の人への対応が、観光客慣れしていて、親切なもてなしが評価された。また、貸切バス利用者では、ガイド、昼食対応などのもてなしが高く評価された。
- 呉市では、ボランティアガイドの熱心さが伝わり、特に、2人1組に1人のガイドが付いた公共交通利用者からの評価が高くなっている。
- 竹原市では、町並み保存地区内の花の飾りつけや、官民の受入体制など町全体としてのもてなしに向けた取り組みが高く評価されたほか、アンケート記入で利用した森川邸でのお茶の接待などが評価を高める結果につながった。
- 全旅程では、それぞれの地域で受入に関った人々の熱意が伝わり、十分なもてなしを受けることができたという意見が多かった。ただし、モニターツアーでのもてなしが一般旅行になった場合の格差があるのではないかという指摘や、過剰なもてなしは観光客が恐縮してしまい、疲れるという意見もあった。

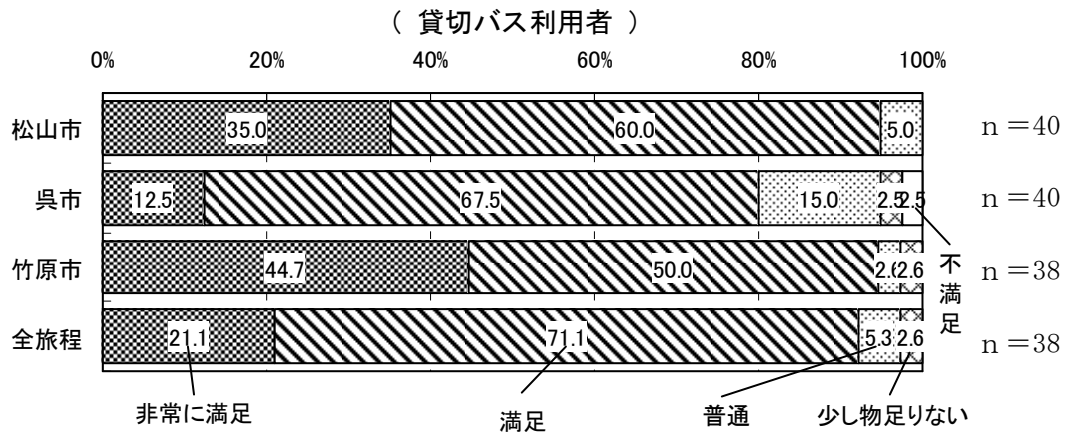


ケ. モニターツアーの総合評価

①各都市・全旅程の総合評価

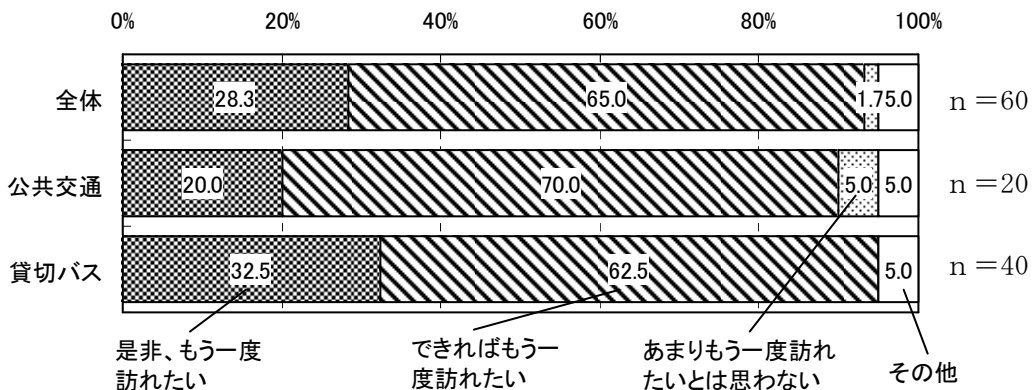
- 各都市，全旅程の総合評価をみると，各都市での受入に携わった人々（ボランティアガイド・受入スタッフ等）の熱意が伝わり，8～9割の人に満足と評価された。
- 松山市では，温泉，旅館，三津地区での普段は見れない施設見学，ガイドなどが高く評価されたが，公共交通利用者は公共交通で移動するには少し広すぎるという意見もあった。
- 呉市では，海軍の歴史を中心とした町の歴史や，ボランティアガイドの対応の熱心さが高く評価された。なお，一部に，戦争との関係で負のイメージがあること，訪問先が女性向けでないという声もあった。
- 竹原市では，町並み保存地区のゆっくりとした印象，よく保存された町家の景観などが高く評価された。なお，町並み保存地区だけでは観光客へのアピール度が低いのでは，という意見もあった。





②瀬戸内海地域への観光旅行での再訪希望について

- 瀬戸内海地域への観光旅行での再訪希望をみると、全体で3割の人が「是非、もう一度訪れたい」としており、6割程度の人が「できればもう一度訪れたい」としている。
- 公共交通利用者と貸切バス利用者を比較すると、貸切バス利用者では「是非、もう一度訪れたい」とする人が3割を超えているのに対し、公共交通利用者が2割に止まっており、公共交通利用者には「あまりもう一度訪れたいとは思わない」とする人もいるなど、公共交通利用者の再訪希望が若干低くなっている。
- なお、その他の意見としては、今回の日程は「スロー」と言えないという指摘もあり、同じような日程ではなく、ゆっくりした日程での再訪を希望する声があった。

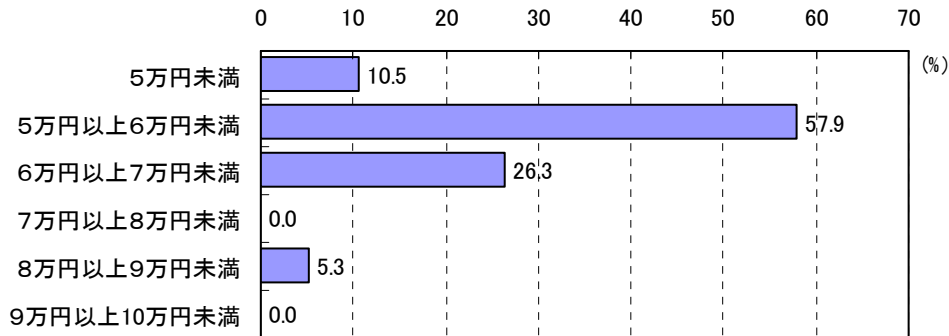


コ. 旅行費用の適正価格について

○今回のモニターツアーにおける全旅行費用（各地からの往復運賃も含む）の適正価格をみると、関西圏では公共交通利用者で5～6万円、貸切バス利用者で7～8万円、首都圏の貸切バス利用者で8万円未満が最も多くなっている。

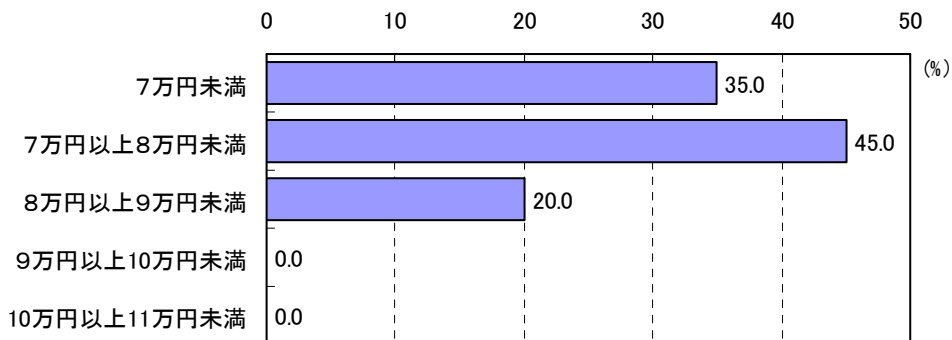
○単価に対する意識は非常に厳しい評価となっており、旅行の価格設定には工夫が必要になる。

（ 関西圏公共交通利用者 ）



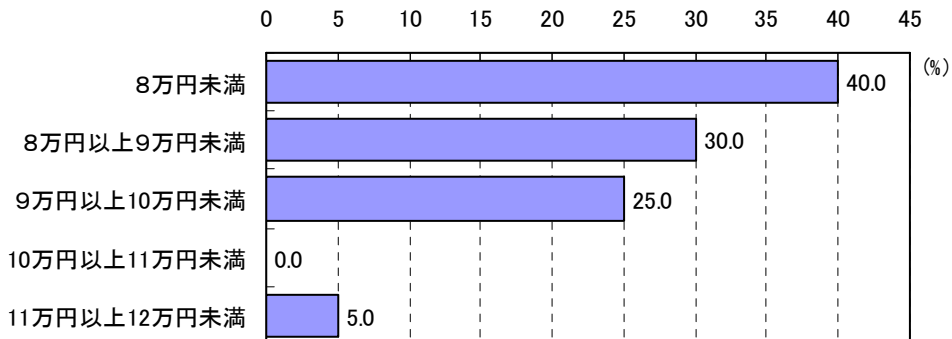
n = 19

（ 関西圏貸切バス利用者 ）



n = 20

（ 首都圏貸切バス利用者 ）



n = 20

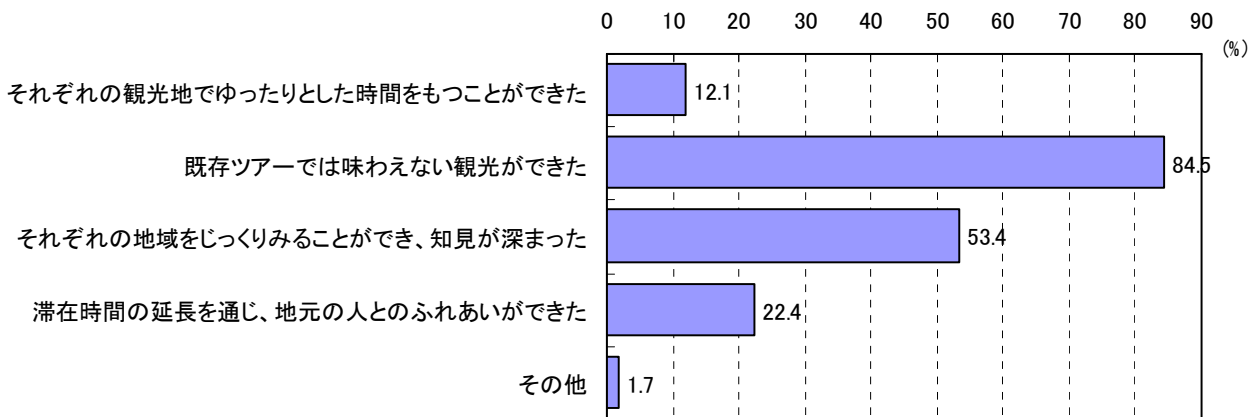
サ. スローツーリズムによる旅行の魅力の増加・減少について

①スローツーリズムによる旅行の魅力が増加したポイント（複数回答）

○既存ツアーと今回のスローツーリズムを比較した場合の、スローツーリズムにより魅力が増加したポイントについて参加者に尋ねると、「既存ツアー参加では味わえない観光ができた」が最も多く、これに「それぞれの地域をじっくり見ることができ、知見が深まった」とする意見がつついた。

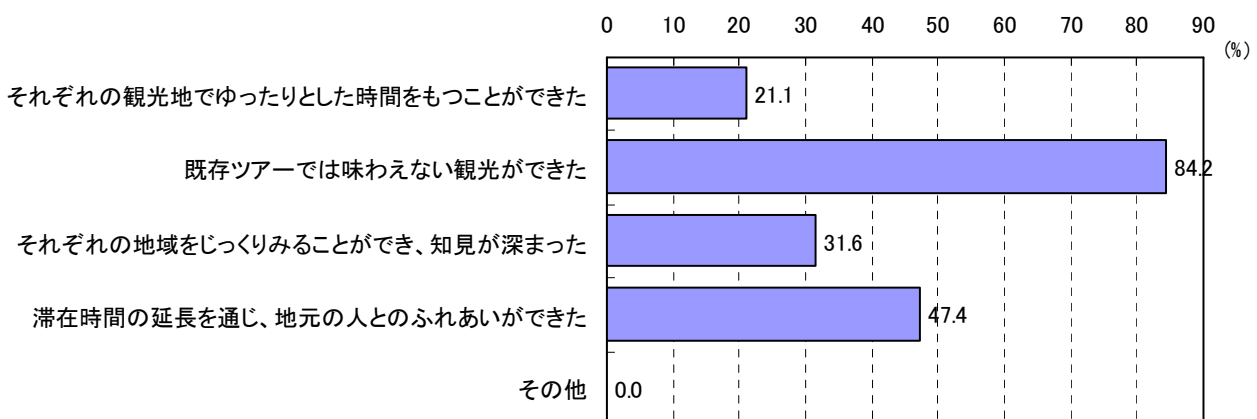
○公共交通利用者と貸切バス利用者进行比较すると、公共交通利用者ではボランティアガイドや公共交通機関利用により「滞在時間の延長を通じて、地元の人とのふれあいができた」とする意見が比較的多くなっている。一方、貸切バス利用者では、各都市でガイドをつけたことにより、「それぞれの地域をじっくり見ることができ、知見が深まった」とする意見が多くなった。

（全体）



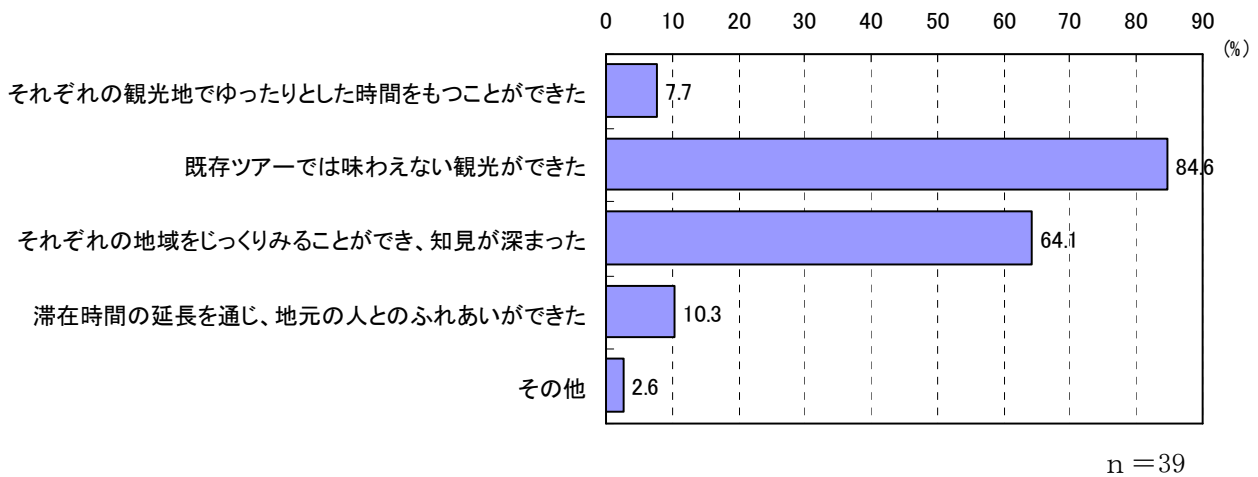
n = 58

（公共交通利用者）



n = 19

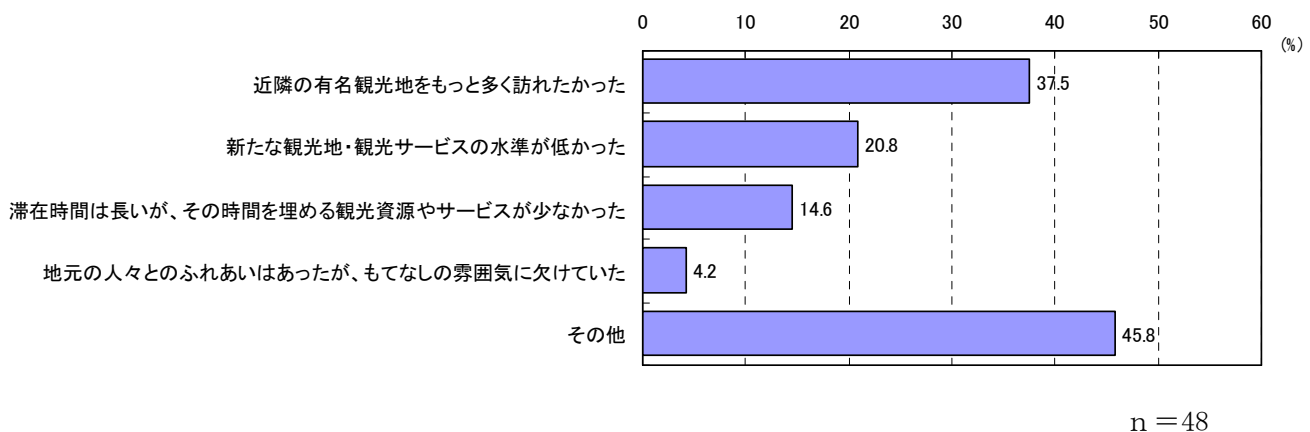
(貸切バス利用者)



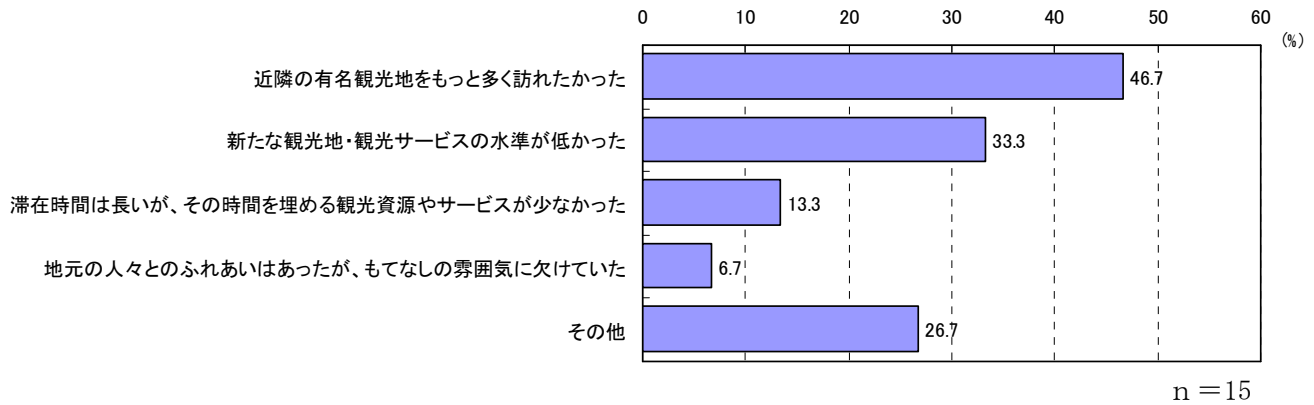
②スロートーリズムによる旅行の魅力が減少したポイント (複数回答)

- 既存ツアーと今回のスロートーリズムを比較した場合の、スロートーリズムにより魅力が減少したポイントについて参加者に尋ねると、「近隣の有名観光地をもっと多く訪れたかった」という意見が多くなっている。一方、その他意見においては、もっとそれぞれの地域をゆっくりまわりたいかった」という意見もあり、せっかく旅行するのだから、旅行日数を延長し、各地の滞在時間をゆっくりとりながら周辺地域までめぐることのできる長期旅行を希望する人もあった。
- 公共交通利用者と貸切バス利用者进行比较すると、公共交通利用者では「新たな観光地・観光サービスの水準が低かった」とする意見が比較的が多くなっている。一方、公共交通利用者では、その他意見として「スロートーリズムといいながらスローではなかった」とする指摘が多かった。

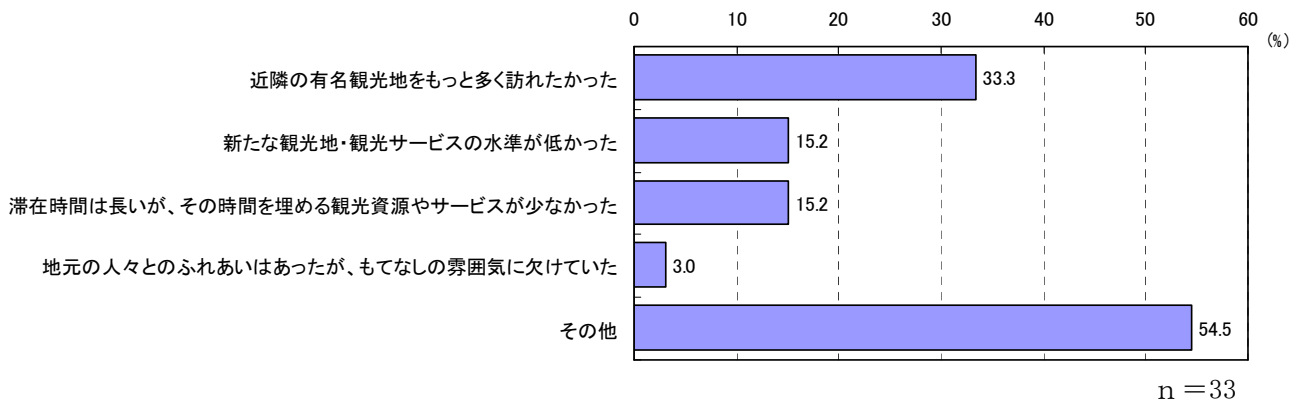
(全 体)



(公共交通利用者)



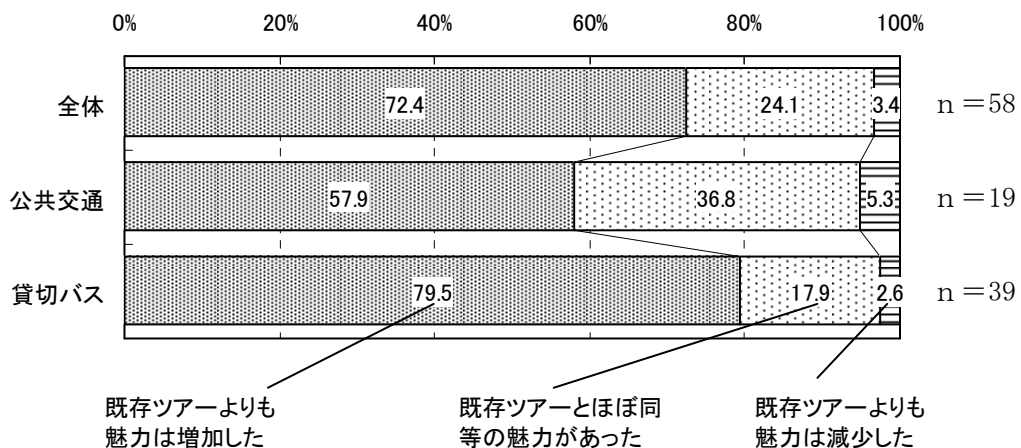
(貸切バス利用者)



③スロートーリズムと既存ツアーとの比較

○既存ツアーと今回のスロートーリズムを比較した場合、スロートーリズムにより旅行の魅力はどう変化したかを尋ねたところ、7割以上の方が、「既存ツアーよりも魅力は増加した」としており、残りの3割近くの方も「既存ツアーとほぼ同等の魅力があった」としている。

○公共交通利用者と貸切バス利用者を比較すると、公共交通利用者では「既存ツアーよりも魅力は増加した」は6割近くだったが、貸切バス利用者では8割近くが「既存ツアーよりも魅力は増加した」と回答している。



シ. 公共交通利用で魅力が増加・減少したポイント (公共交通利用者のみ評価)
(複数回答)

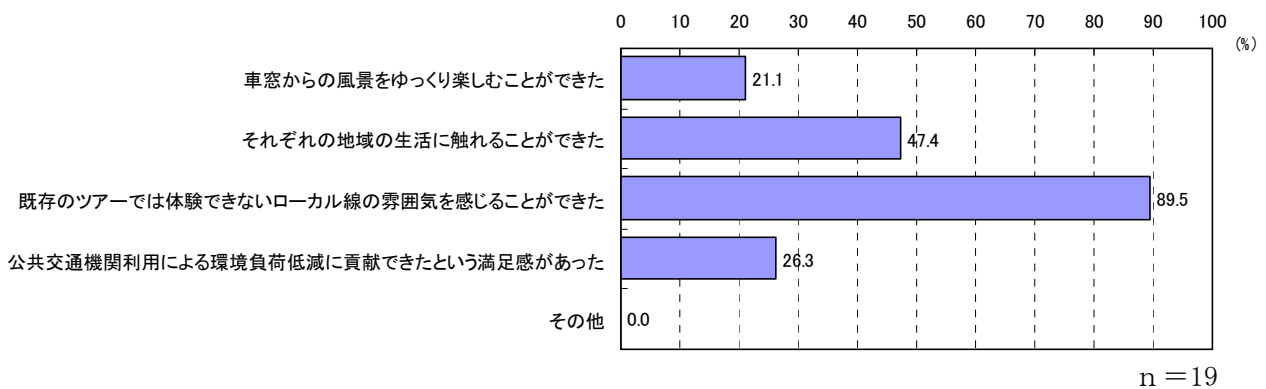
①公共交通利用で魅力が増加・減少したポイント

○既存ツアーと今回のスローリズムを比較した場合の、公共交通機関のみを利用することにより魅力が増加したポイントについて参加者に尋ねると、「ローカル線の雰囲気を楽しむことができた」という意見が多くなっており、これに「それぞれの地域の生活に触れることができた」が続いている。

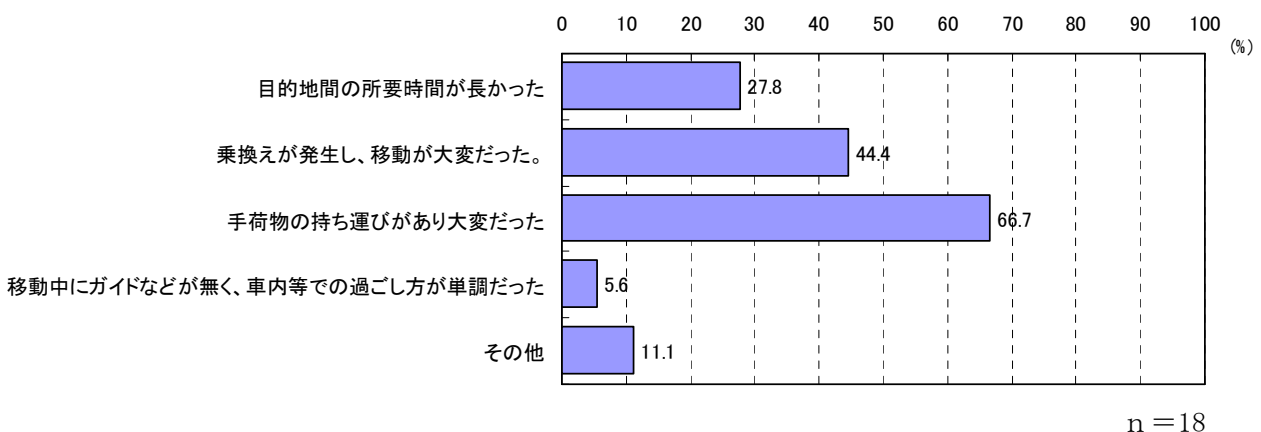
○逆に、公共交通機関のみを利用することにより魅力が減少したポイントについて参加者に尋ねると、「手荷物の持ち運びがあり大変だった」とする意見が多くなっており、これに「乗換えが発生し、移動が大変だった」が続いている。

○なお、公共交通利用者からは、各観光ポイントでの車の往来に対する配慮や、竹原駅のバリアフリー対策の必要性などの問題点が指摘された。

(魅力が増加したポイント)

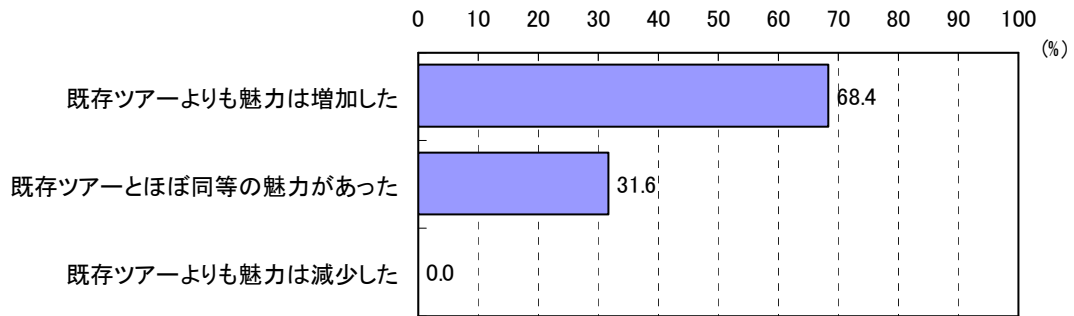


(魅力が減少したポイント)



②公共交通機関利用と既存ツアーとの比較 (公共交通利用者のみ評価)

○既存ツアーと今回の公共交通を利用したツアーを比較した場合、旅行の魅力はどうかを尋ねたところ、魅力は増加したとする人が6割以上で、残りの人も同等の魅力があったとしており、公共交通利用による旅行全体の魅力の低下はほとんどなかったと考えられる。

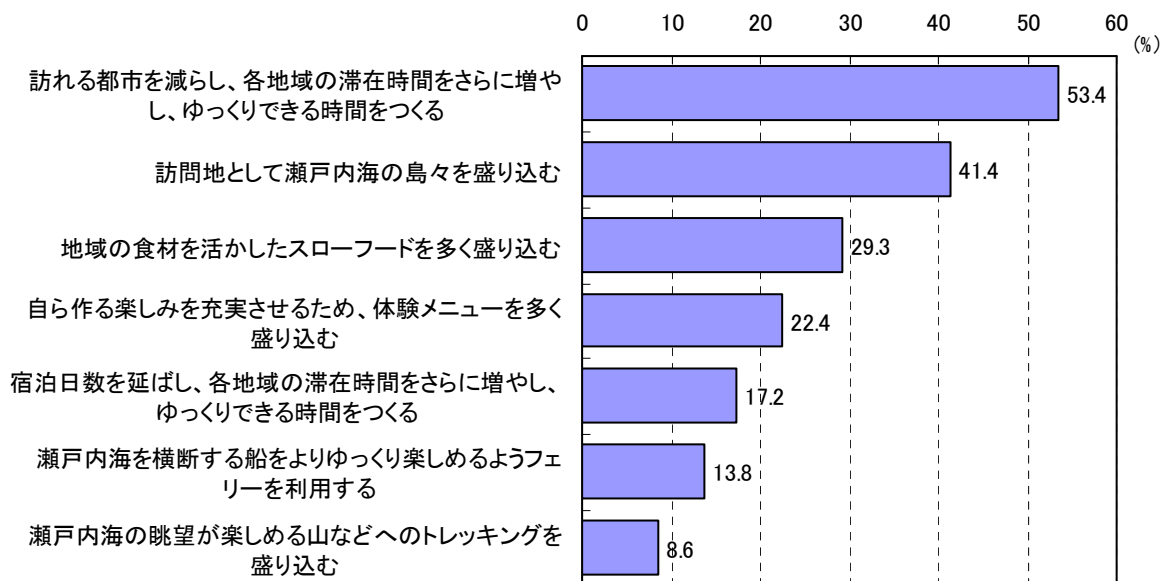


n = 19

ス. 今回のスロートーリズムをさらに充実させていくための追加要素

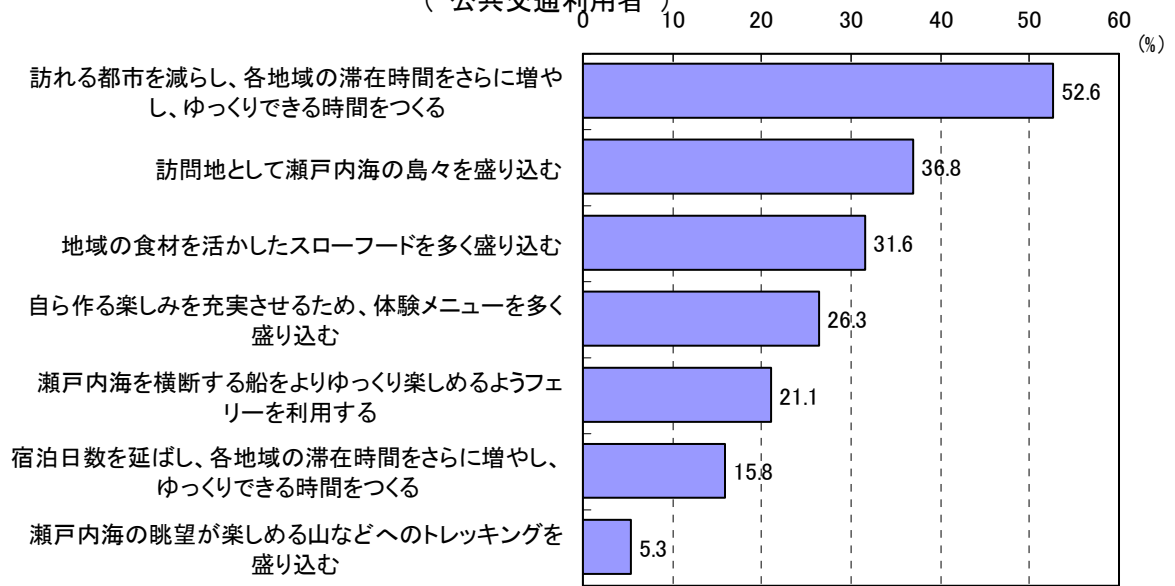
- 今回のスロートーリズムをさらに充実させるために必要な要素を尋ねたところ、半数の人が「訪れる都市を減らし、各地域の滞在時間をさらに増やし、ゆっくりできる時間をつくる」を選んだ。これに次ぐのが「訪問地として瀬戸内海の島々を盛り込む」「地域の食材を活かしたスローフードを盛り込む」などであった。
- 「ゆっくりできる時間をつくる」を選んだ人からは、「説明を受けるだけで、自分でゆっくりみる時間が少なかった」「歳をとるにつれ、詰め込みは強行軍になってしまいつらい」などの意見があった。
- また、「島々を盛り込む」を選んだ人からは、「瀬戸内海に来た、と思える要素は島々に行くことにある」「島での体験がほしかった」などの意見があった。

(全体)



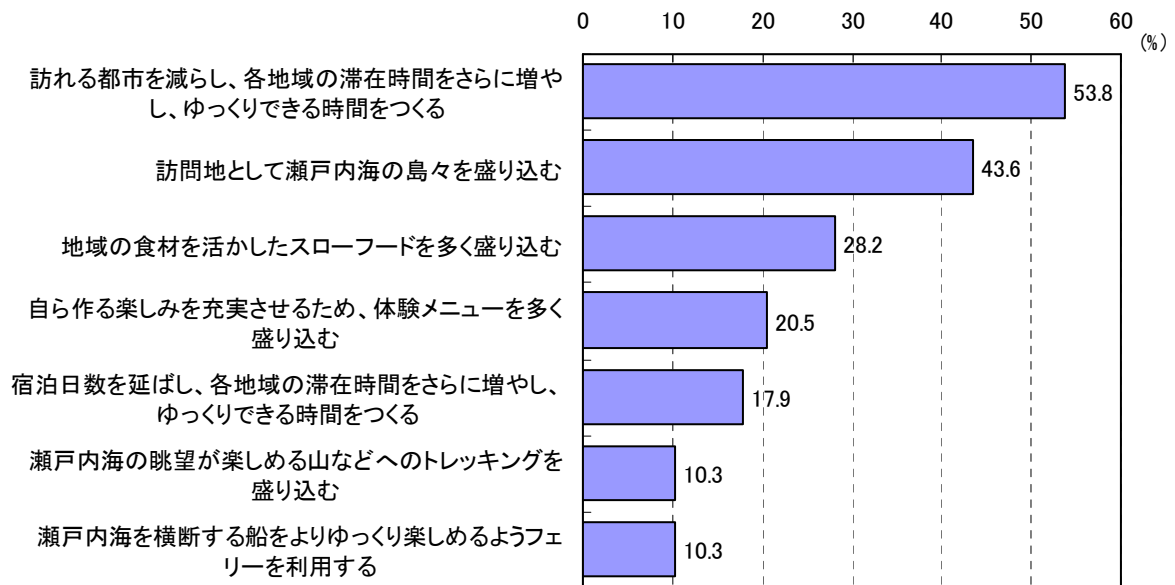
n = 58

(公共交通利用者)



n = 19

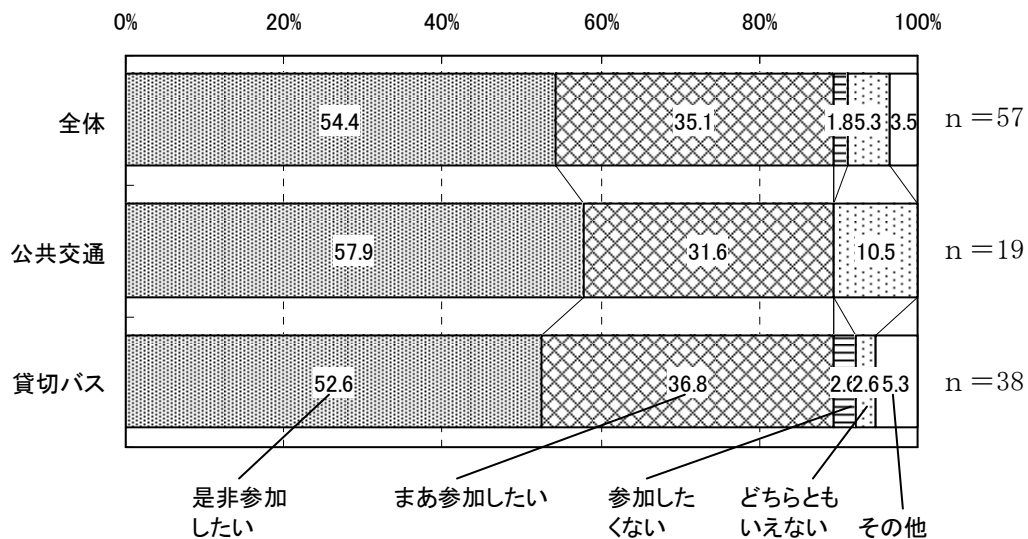
(貸切バス利用者)



n = 39

セ. 今後のスロートーリズムへの参加意向

○今後、スロートーリズムをコンセプトとする旅行に参加してみたいかを尋ねたところ、5割以上の方が「是非参加してみたい」と回答し、約4割の方も「まあ参加してみたい」と回答しており、将来的なスロートーリズムのニーズは十分にあると考えられる。



ソ. 観光地で行うべき環境に優しい取り組みについて

○観光地で行うべき環境に優しい取り組みについて、自由記述で尋ねたところ、多くの方が現在の自然景観、町並みの保全等、景観保護の取り組みの必要性を指摘している。

○また、観光客の排出するゴミの問題への対応や、瀬戸内海の自然環境を保全する清掃活動を含んだ旅行の企画などが指摘された。

○そのほか、瀬戸内海の水質の汚染状況や、漁業などへの影響などを直接漁業者から観光客が聞くような機会があれば、より日々の生活を考え直すきっかけになるのではないかという意見もあった。

タ. スロートーリズムについての意見, 感想

- スロートーリズムについての意見, 感想について, 自由記述で尋ねたところ, 「スロートーリズムは今後, 出来合いの急ぎのツアーよりも求められると思いますので, 充実してほしい。値段は高めでも満足感が得られれば成り立っていくし, リピーターも増えると思う」「時間や観光にとらわれずゆったりと身をゆだね, リフレッシュできる旅であってほしいと思うのです。都会の中のことを一時忘れ, 帰る時にはその土地の方言さえも出る。第二の故郷になれる所, 瀬戸内の気候・風土は, きっと日本の『バカンス』の地になれると思う」といったスロートーリズムの可能性を高く評価する意見が多かった。
- ただし, 「望んでいた旅の形態だと思いますが, 初の試みのためか時間的余裕がなく, スロートーリズムならもう少し時間的な余裕がほしかった。」という指摘のように, 今回のツアー参加者の年代では, もう少しゆっくりとした時間を求める声が強いことがわかる。
- また, 「今回の内容では, 足の不自由な方では無理な点がある。バリアフリーにもっと配慮した見学場所, 交通手段を考えてほしい。」といった意見もあり, 交通アクセスでのバリアフリー化も大きな問題であることが分かった。

チ. まとめ

① 評価されたスローツーリズム的要素

○ボランティアガイド	<ul style="list-style-type: none">・町並みなど、歴史・文化に関する観光資源については、専門的な解説が加わることにより、高い評価が得られた。・なお、歩きながらの解説などは、大人数での行動ではなく4～5人程度の小グループでの行動したほうが評価が高い（例：呉市の公共交通利用者）
○公共交通機関の利用	<ul style="list-style-type: none">・公共交通機関のうち、路面電車や渡船などは、旅行者にとっては非日常的体験であり、観光資源として評価された。・また、路面電車や渡船などは、地元の生活を感じたり、海や町を身近に感じることができると、地域（人・町など）とのふれあいがあることを高く評価された。
○酒蔵での昼食	<ul style="list-style-type: none">・竹原市の昼食では、歴史ある酒蔵を使った店舗を利用したが、この歴史的な空間と地元食材・特産品を用いた昼食は評価が高くなった。
○夜景ツアーやジャムづくりなど体験メニュー	<ul style="list-style-type: none">・単に見聞きする観光だけでなく、自分で作る、感じる体験メニューの評価が高かった。

②公共交通利用者と貸切バス利用者との評価の差

- 貸切バス利用者は、全行程ガイド・添乗員が付いているため、移動のしやすさ（各種乗り物発着場所、出発時刻などの情報）が高く評価された。
- 公共交通利用者は、手荷物の持ち運び、乗換えなどの不便さを感じる一方で、ローカル線の雰囲気や地域の生活と触れ合うことなどのプラス面での効果も評価され、全体として貸切バス利用者と遜色ない満足度を得ている。
- ちなみに、手荷物の持ち運びについては、拠点駅などによる手ぶら観光サービスの実施やコインロッカー・手荷物の一時預かりなどの整備・充実が必要である。

③瀬戸内海スローツーリズムの今後の方向性

- 今回のモニターツアーで評価されたポイントをさらに磨き、さらに評価を高める取り組みが必要である。
- 特に、ボランティアガイドの専門性を高めるなど人材育成を図ることや、路面電車や船など地域の生活と密接な関係を持つ移動手段を利用することにより地域の雰囲気を味わってもらうこと、歴史的空間を活かした郷土料理の提供など食文化の演出、体験メニューの充実などが重要である。
- また、参加者から指摘を受けた、「ゆったりとした滞在」「瀬戸内海の島々への訪問」などの要素を盛り込んでいくことで、瀬戸内海らしさや、スローツーリズムらしさをさらに高めることが必要である。

④今後の課題

- 旅行者から「ゆっくり滞在したい」という意見と「もっと有名観光地を多く訪れたい」という意見の矛盾したニーズが出ており、これをどのような方法で満足させていくかが課題になっていくと考えられる。
- 今回のモニターツアー参加者では、平均宿泊数が2泊とする意見が多かったが、自由意見では、さらに滞在が長くてもかまわないという意見もあり、時間的な余裕のある層に対しては、宿泊日数を増やし、ゆとりと自由度のあるスケジュールを提供し、周辺の観光地情報も積極的に提供することなどで矛盾したニーズに対応していくことも検討すべきである。
- また、それぞれの観光資源に磨きをかけることにより、有名観光地を訪れるのと同様またはそれ以上の満足度を提供できるようにしていくことも対応方策として考えることができる。

(2) 旅行専門家による評価

ア. モニターツアーのスローツーリズム（ゆっくり滞在型）としての魅力度

①松山市

- ・路面電車や循環バスなど市内の公共交通機関が充実しているほか、温泉地に宿泊し、ゆっくりと希望の目的地を散策するスローツーリズムに適している。
- ・ボランティアガイドの充実があれば魅力はさらに高まる。
- ・松山市のイメージは俳人・正岡子規、文豪・夏目漱石など文学の町である。その特徴を活かした企画も必要。（例えば、俳句教室（体験）など）
- ・また、体験メニューとして、伊予がすり体験などの企画も必要。

②呉市

- ・スローツーリズムでは、音戸の瀬戸、町並み散策、音戸の舟歌、音戸の渡し、ボンネットバスなどを強調すべき。
- ・蒲刈などの島々の観光資源を活かせばスローツーリズムを体感できる。
- ・旧呉市内の大和ミュージアム、アレイからすこじま、旧呉鎮守府、入船山記念館、旧海軍墓地など海軍関連の施設巡りだけでは滞在型観光としての魅力が弱い。

②竹原市

- ・町並み保存地区をゆっくり散策する企画はスローツーリズムのテーマに沿っている。
- ・竹細工やジャムづくり体験、酒造巡りは集客サービスとして魅力がある。
- ・町並み保存地区を集客の核として、市域に点在する資源を活かした新しい体験プログラムを開発すれば魅力が高まる。
- ・黒滝山ハイキングは内容を詳しく説明することが必要。

イ. スロートーリズムをさらに充実させていくために必要な要素

○スロートーリズムとは、日本的な自然にふれる「ゆっくり」「ゆったり」「豊かなところ」で旅をすることであろう。また、ノスタルジー、本物の文化、無農薬食品、学習・体験、対話・交流など旅を通じて実感することであると思う。

【必要な要素】

- ・理想的な滞在時間は同一地区に連泊する。
 - ・食文化の掘り起こし（地域産品を活用した新たな郷土料理の開発）
 - ・地域の独自文化の体験と交流（松山市における俳句づくり教室など）
 - ・自然にふれる（海・山など）企画
- 今回は各地域で限られた委員により検討されたが、観光関連事業者全てが理解していかなければならない。今後、行政をはじめ、運輸事業者、宿泊事業者、飲食事業者、食品素材生産者や旅行者などの参画をもって推進していくことが重要。
- 金銭消費型から時間消費型の旅行スタイルに移行しており、時間の制約にとらわれない滞在型のプログラムづくりを進める必要がある。
- 関西や首都圏からの旅行者は日頃の生活から抜け出し、訪問先の文化や歴史、自然、食などをじっくりと楽しみたいという欲求が強くなっている。こうしたニーズに対応する体験プログラムの開発が必要であり、今回のように受け地主導型で地元の方が考えたプログラムやそれを実施する組織づくりが必要。
- 体験プログラムづくりに加えて、朝市の開催や夜の賑わい（夜のイベントや夜間のライトアップなど）の創出などにより、滞在時間や宿泊数を伸ばすことも必要。
- また、優れた観光資源や体験プログラムがあっても、それだけでは旅行商品にはならない。宿泊施設や飲食施設、アクセスなどの周辺機能整備が必要。